

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。									
授 業 概 要		基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。									
到 達 目 標		倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	嘘をつくこと(教科書第1節)			カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。							
2	功利主義(2節)			功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。							
3	薬の配分方法(3節)			「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。							
4	エゴイズム (4節)			エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。							
5	幸福の計算 (5節)			功利主義の習性案について学ぶ。							
6	判断能力と価値判断 (6節)			判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。							
7	価値判断と事実判断(7節)			価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。							
8	正義の原理 (8節)			正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。							
9	思いやりからの道徳 (9節)			思いやりだけで道徳が成立するか考える。							
10	囚人のジレンマ (10節)			正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。							
11	愚行権 (11節)			愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。							
12	貧しい人への義務 (12節)			貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。							
13	未来の人への義務(13節)			未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。							
14	正義の変化 (14節)			時代や文化による正義の違いについて考える。							
15	科学の限界 (15節)			科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		現代倫理学入門 (講談社学術文庫)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	基礎科学						担当教員	金田照夫・宮崎慎二			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学や高専で教鞭をとっていた講師が医学の基礎となる生物学、生化学についての講義を行う。企業の研究員として組換え血栓溶解酵素タンパク質の開発や、酵母での組換えキメラ抗体タンパク質の大量発現などの研究に携わった経験を活かし、より専門的な知識を教授する。									
授 業 概 要		物理・生物の分野において、医学の基礎となる生体力学や生化学、細胞生物学の講義を中心に授業形式で行い必要な知識を習得していく。									
到 達 目 標		細胞の構造と機能および細胞分裂について説明できる。遺伝子の構造と遺伝子発現のしくみの基礎的知識が説明できる。物体の運動について説明でき、また運動とエネルギーの関係について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	生命体のつくりとはたらき			真核細胞と原核細胞の違いと、細胞小器官(オルガネラ)の名称と構造を学ぶ。							
2	生命体のつくりとはたらき			真核細胞と原核細胞の差異と細胞小器官(オルガネラ)の名称と構造を学ぶ。							
3	生命体のつくりとはたらき			タンパク質の構造とアミノ酸 細胞膜の透過性と受動輸送・能動輸送							
4	生体維持のエネルギー			アデノシン三リン酸(ATP)の構造 ATP合成反応、酵素の働き							
5	細胞の増殖とからだの成り立ち			真核生物の染色体とDNA 体細胞分裂と減数分裂 細胞分裂周期							
6	遺伝情報とその遺伝・発現のしくみ			遺伝の法則と染色体 核酸の構造 DNAの二重らせん構造							
7	遺伝情報とその遺伝・発現のしくみ			DNAの複製 遺伝情報の伝達							
8	遺伝情報とその遺伝・発現のしくみ			遺伝情報の伝達RNA 遺伝暗号とタンパク質の合成							
9	力学の基礎①			時間と空間 変位 速度 加速度 円運動							
10	力学の基礎②			力の合成と分解 ベクトル モーメント							
11	力と運動①			運動の法則							
12	力と運動②			身体とてこ							
13	仕事とエネルギー			仕事とは 力学的エネルギー 位置エネルギー エネルギー保存の法則							
14	生体力学への応用			生体力学と理学療法士・作業療法士との関わりについて							
15	まとめ										
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版：医学書院 基礎運動学 第6版：医歯薬出版									
参 考 書											
授業の留意点・備考		主体的に学ぶことを前提とし、積極的な姿勢で受講すること。									

科目名		情報処理					担当教員		山田 光輝 塚本 智子		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		東証マザーズに上場した企業のIT責任者として従事し、2004年からデータ復旧やサーバ・ネットワーク構築・PCトラブル解決などのIT会社を経営しています。 2010年からは熊本県公共職業訓練委託訓練校として、離職者を対象とした職業訓練を行い就職支援を行っています。									
授 業 概 要		企業のパソコン利用率は99%を超え、業種・職種を問わずパソコンスキルは今やあらゆる企業で必須なスキルとなり、就職活動やレポート提出には欠かせないツールとなっている。当授業では、Windowsの基礎、フォルダ・ファイル構造を習得し、Word2016・Excel2016を使用した実践形式による基本から応用までの習得を行う。また、就職後、個人情報漏洩の加害者とならないよう患者などの個人情報の取扱についてもマスターする。									
到 達 目 標		●Word2016・Excel2016の効率的な操作方法を習得し実践的な文書作成や表計算方法を習得する。 ●PC基礎、Windows10の操作方法、フォルダ・ファイル構造を理解する。 ●Word・Excel3級技能を習得し、希望者は左記資格を取得することができる。 ●就職後取扱う患者などの個人情報の重要性を理解し、情報セキュリティを理解し適切に取り扱うことができる人材。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション Windows10の基礎と操作方法			Windows10の基礎と基本操作方法 フォルダ、ディレクトリ構造 Word2016の基本、Wordの画面構成、画面操作入力							
2	Word2016入門			Word文章作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、保存、編集とコピー、移動など ページ設定、文字の書式設定							
3	ビジネス文書作成①			ビジネス文章にチャレンジする。実践練習問題1							
4	ビジネス文書作成②			ビジネス文章にチャレンジする。実践練習問題2							
5	ビジネス文書作成③			ビジネス文章にチャレンジする。実践練習問題3							
6	ビジネス文書作成④			より実践的なビジネス文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題1～							
7	ビジネス文書作成⑤			より実践的なビジネス文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題2～							
8	Excel2016入門			データ入力、ワークシート書式設定、グラフの作成、グラフの設定の変更、関数、データベース機能							
9	ビジネス表計算シート作成①			ビジネスで 사용되는表計算にチャレンジする。実践練習問題1							
10	ビジネス表計算シート作成②			ビジネスで 사용되는表計算にチャレンジする。実践練習問題2・3							
11	ビジネス表計算シート作成③			より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題1～							
12	ビジネス表計算シート作成④			より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題2～							
13	ビジネス表計算シート作成⑤			より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題3～							
14	セキュリティの知識①			インターネットの普及と今後のネット社会動向							
15	セキュリティの知識②			ネット社会による個人情報漏洩問題、情報セキュリティやマルウェア知識							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業初日にキーボード操作の確認を行いますので、各自キーボード操作が出来るようにしておくこと（350字程度） ページ数を決めて入力練習をするようにと伝える。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題 （ 10 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		30時間でマスター Word2016(Windows10対応)：実教出版 30時間でマスター Excel2016(Windows10対応)：実教出版 Word文書処理技能認定試験3級問題集【2016対応】：ウイネット Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】：ウイネット									
参 考 書		オリジナルテキスト									
授業の留意点・備考		操作指示と異なる内容（関係の無いサイトの閲覧など）に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。 理解が早い生徒に関しては上位資格の試験対策を行います。									

科目名	統計学						担当教員	黒田 俊博			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小中及び高校での指導経験があり、統計の基礎的な講義・演習を行うことができる									
授 業 概 要		・主に医療保健の資料で、図的表示法、代表値等の活用法及び計算による求め方を学習する ・正規分布の性質を割合計算を通して学習する ・標本調査の作業を通し、仮説検定の基本的考え方を学習する									
到 達 目 標		・資料を図表に表すことができる ・資料の代表値、標準偏差を求めることができる ・標準正規分布表から当該データの割合を読み取ることができる ・標本調査ができる ・平均値の仮説検定ができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			授業概要、成績評価、及び授業の受け方について&準備調査テスト							
2	ヒストグラムと平均値			平均値の利点とその限界、ヒストグラムの作成と資料の読み取り							
3	相対度数と度数折れ線			大きさの異なる資料の比較方法としての相対度数と度数折れ線の描き方							
4	代表値と散らばりを表す指標			平均値、中央値、最頻値の特性と散らばりを表す標準偏差の活用法							
5	資料と円グラフ			記名資料を視覚化する円図表の作成方法							
6	帯グラフによる比較			2つ以上の資料を比較しやすくする帯図表の作成方法							
7	散布図			2つの資料の関連を視覚化する散布図の描き方と相関関係の理解 統計図表のまとめ							
8	ニュースの中の統計 (1)			第2回から第7回の講義のトピックをニュース媒体の中に探す							
9	正規分布			正規分布とその性質							
10	正規分布の標準化			確率変数を標準化する手順と標準正規分布表を使って割合を求めること							
11	標本調査 (1)			乱数表を使い、模擬的に標本調査を体験すること							
12	標本調査 (2)			母集団と標本の関係を使い、標本平均値の出現割合を求めること							
13	仮説検定の概念			仮説検定の基本的考え方 帰無仮説 第一種の過誤と第二種の過誤 有意水準 (危険率)							
14	仮説検定 (1)			母集団の標準偏差が既知の場合の平均値の検定							
15	仮説検定 (2) ニュースの中の統計 (2)			母集団の標準偏差が未知の場合の平均値の検定 第9回から第14回の講義のトピックをニュース媒体の中に探す							
準備学習 (予習復習) の 具体的な内容		・講義後のレジメの整理を確実に実行する ・提出要求の練習の課題をしっかりと実行する									
成 績 評 価		定期テスト (80 %) レポート (20 %)									
教 科 書		教科書なし									
参 考 書		リサーチシリーズ 15 リハビリテーション統計学 (中山書店) 基本統計学 第4版 (東洋経済新報社) レポートの組み立て方 (ちくま学芸文庫) 理系の作文技術 (中公新書)									
授業の留意点・備考		講義を単に聞かせるという姿勢ではなく、図表作成、電卓操作、資料統計のデータ作り等の作業・活動を積極的に取り入れ、統計の基礎知識を身に付けさせる。									

科目名		統計学演習				担当教員		緒方 茂			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活						選択・必修	必修	
担当教員の實務経験		臨床・教育の領域において、臨床研究および基礎研究によるさまざまな研究デザインに対する統計的手法を実践できることにより、将来臨床に必要な統計リテラシーの学習を行う事が出来る。									
授 業 概 要		医学系とくにリハビリ領域における研究にて用いられる統計学的手法について学ぶ。例題をもとに電卓や統計ソフトを使用した簡単な統計学的手法を実践する。また身近なデータから統計手法を選択し考察を交えた推論ができるようになる。									
到 達 目 標		統計学の概要を大まかに捉えて、統計学の専門用語である正規分布や特性値、各統計的手法を理解できる。さらに例題を通して理解を深め簡単なデータにおける統計処理が出来るようになる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			統計学を学ぶ意義を理解する。							
2	統計学の概念と歴史			統計学の概念と過去の歴史から統計学がどのように人類に恩恵をもたらしたか理解する。							
3	データの種類と整理			各尺度の種類と特性を理解し、中央値・平均値・最大値・最小値・標準偏差などを理解する。							
4	データ整理とヒストグラム作成			例題のデータからヒストグラムを作成し、さらに正規分布の特性を理解する。							
5	名義尺度の変数に対する統計学的検定（１）			名義尺度の理解を深め、さらに名義尺度で使用する統計手法を覚える。							
6	名義尺度の変数に対する統計学的検定（２）			名義尺度の例題データを使用し、統計手法の選択から使用までを身につける。							
7	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（１）			間隔尺度・比率尺度の理解を深め、その統計手法が選択できるようにする。							
8	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（２）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
9	間隔・比率尺度の変数に対する統計学的検定（３）			間隔尺度・比率尺度における統計手法を選択できる手順を例題データから演習を通して覚える。							
10	順序尺度の変数に対する統計学的検定（１）			順序尺度の理解を深め、対応のあるデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
11	順序尺度の変数に対する統計学的検定（２）			順序尺度の理解を深め、対応の無いデータで統計手法が選択でき結果まで出せるようにする。							
12	順序尺度の変数に対する統計学的検定（３）			例題を通して統計手法を身につける							
13	相関・回帰直線（１）			相関分析の概念とその流れを理解する。							
14	相関・回帰直線（２）			例題を通して演習において相関分析・回帰分析を身につける。							
15	まとめ			レポート及び定期試験のオリエンテーション							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		その日に学習したものを、教科書や資料を確認しながらしっかり復習するように									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		対馬栄輝他『リハビリテーション統計学』中山書店									
参 考 書		渡邊孝孝他『PT・OTのための統計学入門』、三輪書店 杉山高一他『保健・医療を学ぶ人のための統計学』純文社 対馬栄輝『SPSSで学ぶ医療系データ解析』東京図書									
授業の留意点・備考		・講義ではデータ処理にて数を扱うが、数字に対して苦手意識を持たず取り組むこと。 ・「なぜ、このような統計学的手法が必要なのか」という意識を持ちながら授業に臨むこと。									

科目名		スポーツ・健康学					担当教員		池田 泰介			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			中学校・高等学校の保健体育指導および社会教育施設でのスポーツ指導の経験を活かし、子どもから高齢者に対しての運動の必要性やスポーツの特性について、講義・演習を行うことができる									
授 業 概 要			講義や実技を通して、健康の維持・増進に関する基礎的知識を学習し、各種スポーツの特性や技術およびトレーニングの方法についても理解を深め、スポーツの有効性について学ぶ									
到 達 目 標			健康の定義や運動の必要性を説明できる。安全に楽しく運動ができる方法を習得する事ができる。障がい者スポーツの種類とルールについて説明できる。レクリエーション・スポーツの実施計画を作成することができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				授業概要、達成目標、評価方法、授業の注意点、自己紹介							
2	健康と運動				健康の定義および社会環境と体力について							
3	トレーニング①				無酸素性のトレーニングとその効果							
4	トレーニング②				有酸素性のトレーニングとその効果							
5	心理的スキル				メンタルトレーニングの必要性							
6	準備運動・体操				準備運動の必要性および実践							
7	障がい者スポーツ①				障がい者スポーツの種目・特性							
8	障がい者スポーツ②				ボッチャの特性およびルール・体験							
9	スポーツ・レクリエーションの実施計画①				スポーツ・レクリエーションの実施計画作成							
10	スポーツ・レクリエーションの実施計画②				スポーツ・レクリエーションの実施計画提出							
11	スポーツ・レクリエーション①				アイスブレイキングの計画・実施							
12	スポーツ・レクリエーション②				車いすバスケットボールの計画・実施							
13	スポーツ・レクリエーション③				卓球の計画・実施							
14	スポーツ・レクリエーション④				フライングディスクの計画・実施							
15	スポーツ・レクリエーション⑤				ソフトバレーの計画実施							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			運動のできる服装・体育館シューズ									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 50 ％） ☒ 実技試験（ 30 ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 10 ％） ☒ 課題 （ 10 ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			なし									
参 考 書			健康・運動・スポーツのTopics（八千代出版）									
授業の留意点・備考			体を動かす為、体調管理に努めること。 体調が良くない場合は無理をせず担当教員に伝え見学すること。 運動を実施する場合は積極的に参加すること。									

科目名		対人関係論				担当教員		山田 勝久			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		精神保健福祉領域の対人援助実務に携わった経験をいかし、対人援助職として身につけておくべき基本的態度や知識について講義・演習を行う。									
授業概要		自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心のパターンを知る。さらに、対人援助職として対象者との関係性を構築していくために求められる、援助的態度と対話のスキルを習得する。									
到達目標		1. 自身の自我状態を知る 2. 自身の思考・コミュニケーションパターンを知り、アサーティブな表現手段を習得する 3. 対人援助職として求められる基本的態度を習得する 4. 対人援助職として求められる対話の技術を習得する									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	オリエンテーション 自分の心を知る①				TEGを用いて学生自身の自我状態を理解する						
2	自分のコミュニケーションパターンを知る				交流分析の手法を用いて様々なコミュニケーションパターンを理解する						
3	自分の心を知る②				ストロークについて学ぶ。 OKグラムを用いて、自身の「基本的構え」を理解する						
4	自分の心を知る③				「自己認識ゲーム」を通して自己理解を深めることができる						
5	アサーションと自己表現				自己主張のパターンを理解し、アサーティブな自己主張について学ぶ						
6	「怒り」の扱い方				「怒り」の構造を理解し、怒りを上手に表現する方法を学ぶ						
7	グループワーク				グループワークを通して、建設的な自己主張のあり方を演習する						
8	援助的態度について				対人援助職として求められる基本的態度（受容・共感・傾聴）を学ぶ						
9	上手な聞き方①				面接で求められる上手な聞き方の技術を学ぶ						
10	上手な聞き方②				面接のロールプレイを通して、上手な聞き方を演習する						
11	対話について				対話の意義を理解し、様々な対話の技法を学ぶ						
12	ダイアログ実践①				様々な技法を用いた対話を演習する						
13	ダイアログ実践②				様々な技法を用いた対話を演習する						
14	社会人基礎力としてのコミュニケーション				社会人として求められる基本的なコミュニケーションスキルについて学ぶ						
15	授業の総括				これまでの授業を振り返り、対人援助職として求められるコミュニケーションスキルについて考える						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。									
成績評価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教科書		なし ※教員が資料を準備します									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。									

科目名	総合教育 I						担当教員	有働 正二郎 山田 勝久		
-----	--------	--	--	--	--	--	------	-----------------	--	--

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。									
到 達 目 標		専門学校における学習の意義について説明できる。授業を受ける上での心構えについて説明できる。効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる。効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、学習補助ツールの活用について実践できる。効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ		授 業 内 容								
1	オリエンテーション (有働)		専門学校における学習の心構えについて概略を理解した上で、学習習慣についてしっかりと学ぶ								
2	学習法 (有働)		自己学習の進め方や集中の仕方及び記憶カトレーニングの方法について学ぶ								
3	学習法演習 (有働)		実際に記憶カトレーニングの演習を行う								
4	レポートの書き方とルール (有働)		レポート表紙の書き方やレポート提出のルール、レポート表紙規定やレポート本文規定について学ぶ								
5	図書室の利用法 (有働)		基本的な図書館の利用の方法について学ぶ。								
6	文献検索の方法 (有働)		インターネットを活用した文献検索の方法について学ぶ								
7	雑誌の活用法 (有働)		雑誌の活用法について学び、興味ある内容をまとめる演習を行う								
8	文献の読み方・専門書の活用 (山田)		種々の文献や学習補助ツールの活用法を学び、演習する								
9	ノートの取り方① (山田)		授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する								
10	ノートの取り方② (山田)		授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する								
11	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)		自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する								
12	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)		自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する								
13	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)		自宅学習における小テストの活用について学び、演習する								
14	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)		自宅学習における小テストの活用について学び、演習する								
15	学習習慣について (山田)		自身の学習習慣について振り返り、問題意識を持つ								
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		ここで学んだ内容を、日々の学習に活かすこと									
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (10 %) ☒ 課題 (90 %) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		なし ※資料は教員が準備します									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		参加型の授業の際は、学生同士で積極的に意見を交わすこと									

科目名		総合教育Ⅱ					担当教員		越地 真一郎			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解				選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			熊本日日新聞社で取材記者やN I E（新聞活用講座）を長年にわたり経験。									
授 業 概 要			どんな進路（職種）にも必要とされるのが社会人基礎力。その中でも「読む、書く、話す」のコミュニケーション能力の育成に重点を置く。									
到 達 目 標			実社会につながる基本スキルとして、次の「知る」「考える」「伝える」の3つの力を磨く。 ①世の中や身の回りで何が起きているかを「知る」 ②その背景や課題、自分の意見・提言を「考える」 ③考えたことを他人に分かるように「伝える」									
授 業 計 画												
回	テーマ（順不同）				授 業 内 容（順不同）							
1	「伝える」から「伝わる」へ				相手に「伝わる」表現方法とは							
2	社会に関心を				ニュース穴埋めクイズ、世相マンガの絵解き							
3	気分はコメンテーター				旬の出来事に対するコメントを言う、書く							
4	答えは一つじゃない				「正解のない問い」にどう答えるか							
5	要約のワザ				言いたいことは何か～要点をつかむコツ							
6	結論ファースト				結論を先に示し、理由・根拠を後で述べる「先結後各」の表現法							
7	情報爆発時代				各メディアの長所、短所							
8	言葉は面白い				記事の見出しを組み合わせる「見出し川柳」コンテスト							
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			日頃からニュース（世の中のいろいろな出来事）に関心を持っておくこと									
成 績 評 価			☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 50 %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			教科書なし									
参 考 書			授業当日の新聞（熊本日日新聞）を教材として全員に配布									
授業の留意点・備考			ワークショップ中心の参加型授業を行う。恥をかく（自らをさらけ出す）ことを怖がらないこと。									

科目名	総合教育Ⅱ						担当教員	田畑 博敏			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	約35年にわたり、大学で「哲学」や「論理学」等の人文系科目の教育研究に従事した経験を生かして、文章表現・読解の指導ができる。										
授業概要	自分の意見や、調べた情報を、的確な文章に表現できることを目指す。そのために、語彙・文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学ぶ。手紙文や意見文の例を学び、自分で文章を書く練習をする。										
到達目標	本講義により、受講者は、日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できるようになる。										
授 業 計 画											
回	テーマ（順不同）					授 業 内 容（順不同）					
1	語句及び語彙					文章に出てくる語句・語彙の意味を正しく知る					
2	文法					文法的に正しい言い方・表現法を学ぶ					
3	資料分析					表やグラフ等の資料の分析方法を学ぶ					
4	文章読解					文章読解の基本を学ぶ					
5	文章読解					文章読解の技術を深める					
6	手紙文					手紙文についての基本知識を学ぶ					
7	意見文					意見文を読解し、自分で書いてみる					
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		参考書の指定部分を予め読む。授業内容を深めるため復習する。									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 90 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教科書		基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会									
参考書		基礎から学べる！文章力ステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会									
授業の留意点・備考		国語辞典（電子書籍で可）を持参すること。自分の考えを他者に伝えるにはどうすべきか、常に考えること。									

科目名		国際コミュニケーション					担当教員		ショウナ・エッシャー			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容		科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			2006年4月からメディカルカレッジ青照館英会話非常勤講師を勤め、現在に至る									
授 業 概 要			*グループ分けして、ボキャブラリーマスター *ウォーミングアップとしてボディランゲージ & アイコンタクトによる会話 *会話カードを作り、評価チェックする									
到 達 目 標			*英語によるコミュニケーションを楽しく学ぶ *会話パートナーとの信頼、相互関係助け合いを形成する *英会話に対し、前向きで意欲的姿勢を形成する									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	Introductions: Tell about yourself Find out about others				自分のこと、相手のことをどのようにたずねるか 会話カード#1の作成							
2	Family and Relatives				家族、親戚のことについて述べたり尋ねたりする表現 会話カード#2の作成							
3	Shopping/Money/Numbers				買い物、お金、様々な数に関する会話の指導 会話カード#3の作成							
4	Food. Eating. Restaurants				食に関する英会話全般の指導 会話カード#4の作成							
5	Music. Concerts				音楽に関する様々な表現等の指導 会話カード#5の作成							
6	Theme#1-#5 Mixed practice & bonus games				テーマ#1～#5の復習&コミュニケーションゲームの実施							
7	Review Test #1-#5				テーマ#1～#5の復習テストの実施							
8	Free Time Activities				様々なアクティビティに関する表現等の指導 会話カード#6の作成							
9	Great Holiday Plans. Travel				休暇、旅行の計画、実行に関する様々な表現の指導 会話カード#7の作成							
10	Sports and Recreation				スポーツ、レクリエーションに関する表現の指導 会話カード#8の作成							
11	Friends & Feelings				友人や感情に関する表現の指導 会話カード#9の作成							
12	Part-time Jobs & Working				アルバイト、仕事に関する表現の指導 会話カード#10の作成							
13	Catch up chance for unfinished missed work.				テーマ#1～#10のキャッチアップ							
14	Theme#6-#10 Mixed practice & bonus games				テーマ#6～#10の復習とコミュニケーションゲームの実施							
15	Review Test #6-#10				テーマ#6～#10の復習テストの実施							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			毎回、各テーマ#ごとの重要ワード、フレーズの小テストの作成 復習テストの作成									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 50 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 40 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☒ 発表 （ 10 ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			Tools for Increasing Proficiency in Speaking: ウエルオン									
参 考 書												
授業の留意点・備考			各テーマごとに使う単語、フレーズを使い、コミュニケーション出来るように、生徒に楽しく指導する									

科目名		解剖学Ⅰ					担当教員		宮崎 慎二			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		10年以上理学療法士として病院勤務した経験に基づき、理学療法士の視点で解剖学を教授する。										
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。特に解剖学Ⅰでは骨学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。										
到 達 目 標		・解剖学的重要性がわかる。 ・運動器について理解する。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。 ・人体の構成要素を理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション 序論				解剖学とは 解剖学の勉強の仕方							
2	序論 人体の基本構造、解剖学の基礎				人体の大要と解剖学用語 人体の構成（組織）							
3	骨学総論 骨の形態と構造				骨学総論 骨の形態と構造 骨のリモデリング							
4	骨学総論 関節の構造と種類				関節の構造と機能 関節靱帯 関節と理学療法士・作業療法士との関わり							
5	骨学各論 骨盤 大腿骨				骨盤・大腿骨の全景 骨盤・大腿骨の特徴 各部の名称							
6	骨学総論 下腿骨 足部				下腿骨・足部の全景 下腿骨・足部の特徴 各部の名称							
7	骨学各論 下肢の連結				下肢骨の繋がりと各関節の特徴							
8	骨学各論 頭蓋骨				頭蓋骨の全景 頭蓋骨の特徴 各部の名称							
9	骨学各論 脊柱				脊柱の全景 脊柱の特徴 各脊椎骨の名称							
10	骨学各論 胸郭				胸郭の全景 胸郭の構成 各部の名称							
11	骨学各論 頭蓋・脊柱の連結				頭蓋・脊柱・胸郭の連結							
12	骨学各論 肩甲帯 上腕骨				上腕骨の全景 上腕骨の特徴 各部の名称							
13	骨学各論 前腕骨 手部				前腕骨・手部の全景 前腕骨・手部の特徴 各部の名称							
14	骨学各論 上肢の連結				肩甲帯を含めた上肢骨の連結							
15	まとめ				まとめ							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		各骨をよく観察し、テキストと比較しながら立体的に捉えること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %）☐ 実技試験（ %）☒ 小テスト（ 10 %）☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %）☐ 発表（ %）☐ その他（ ）										
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学：医学書院										
参 考 書		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系										
授業の留意点・備考												

科目名		解剖学Ⅱ				担当教員		山本 英夫			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、筋の構造と機能について講義を行う。									
授業概要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学習する。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。									
到達目標		骨格筋の構造と機能を理解する。各筋の付着部（起始・停止）、神経支配を覚え、その作用を理解する。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション 筋学総論①			筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、筋に関係する構造、組織について学習する。							
2	筋学総論②			骨格筋の付着部（起始、停止）と作用について学習する。							
3	神経系①			骨格筋と運動に関係する脳及び脊髄の構造を学ぶ。骨格筋の神経支配について学習する。							
4	神経系②			脊髄神経と上肢の筋に分布する腕神経叢について学習する。							
5	神経系③			脊髄神経と下肢の筋に分布する腰神経叢、仙骨神経叢について学習する。							
6	筋学各論 上肢の筋①			上肢帯（肩甲帯）の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
7	筋学各論 上肢の筋②			上腕にある屈筋、伸筋の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
8	筋学各論 上肢の筋③			前腕にある屈筋群、伸筋群の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
9	筋学各論 上肢の筋④			手の内在筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
10	筋学各論 下肢の筋①			股関節周囲にある筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
11	筋学各論 下肢の筋②			大腿部にある伸筋群、内転筋群、屈筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
12	筋学各論 下肢の筋③			下腿部、足部にある背屈筋群と底屈筋群、腓骨筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。							
13	筋学各論 体幹の筋①			頭部、頸部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
14	筋学各論 体幹の筋②			胸部、腹部、背部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。							
15	まとめ			これまで学習したことを復習し、理解を深める。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。									
成績評価		☒ 定期試験（ 60 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 40 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。									

科目名	解剖学Ⅲ					担当教員	田中 裕己			
-----	------	--	--	--	--	------	-------	--	--	--

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		回復期リハビリテーション病院で勤務した経験を活かし、神経系の解剖について講義することができる。									
授業概要		人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表的な部分である、疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。									
到達目標		神経系の構造、位置関係を認識する。神経系の働きを理解する。疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。									
授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	神経系総論について					神経系の概要について学習する					
2	神経系の循環について					脳血管系と脳室について学習する					
3	脊髄について					脊椎や脊髄神経について学習する					
4	脳幹について					中脳・橋・延髄について学習する					
5	小脳について					小脳中部・小脳半球について学習する					
6	間脳について					視床、視床下部について学習する					
7	終脳について①					大脳皮質や灰白質について学習する					
8	終脳について②					大脳基底核や大脳辺縁系について学習する					
9	伝導路について①					下降性伝導路について学習する					
10	伝導路について②					上行性伝導路について学習する					
11	末梢神経について①					脊髄神経について学習する					
12	末梢神経について②					神経叢について学習する					
13	末梢神経について③					脳神経について学習する					
14	末梢神経について④					自律神経について学習する					
15	まとめ					神経系のまとめを行う					
準備学習(予習復習)の具体的な内容		指定教科書の該当箇所について、事前に目を通しておく									
成績評価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教科書		標準理学療法学・作業療法類 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院									
参考書		特になし									
授業の留意点・備考		特になし									

科目名		解剖学Ⅳ					担当教員		吉永 一也		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		国立大学医学部において解剖学の講義・実習を担当した経験を活かし、人体の構造と機能について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		解剖学では、人体を構成する各器官の構造と立体配置について学習する。そのうち、解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な内臓や感覚器の正常構造と立体配置について学習する。									
到 達 目 標		各器官の構造と立体配置を説明できる。解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ	授 業 内 容									
1	感覚器系①	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（外皮・視覚器）									
2	感覚器系②	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器）									
3	循環器系①	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（全体像）									
4	循環器系②	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（心臓）									
5	循環器系③	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（動脈系）									
6	循環器系④	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（静脈系）									
7	循環器系⑤	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（胎児循環、リンパ系）									
8	消化器系①	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（全体像）									
9	消化器系②	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸）									
10	消化器系③	講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。（肝臓、胆嚢、膵臓）									
11	呼吸器系	講義を通して、呼吸器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。									
12	泌尿器系	講義を通して、泌尿器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。									
13	生殖器系	講義を通して、生殖器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。									
14	内分泌系	講義を通して、内分泌系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。									
15	まとめ	重要事項を復習し、解剖学の基礎的知識を身につける。									
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		不明な点は、授業中に積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。									

科目名	生理学 I	担当教員	中西 宏之
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係わった経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。
-----------	---

授業概要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。
------	---

到達目標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。
------	--

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	細胞の構造と機能①	細胞膜の機能、細胞内小器官を学ぶ
2	細胞の構造と機能②	静止電位、活動電位の発生メカニズムを学ぶ
3	血液①	血球の組成、赤血球・白血球の役割を学ぶ
4	血液②	血液の凝固・線溶、血漿成分、血液型を学ぶ
5	血液③	非特異的生体防御、免疫反応、Tリンパ球・Bリンパ球を学ぶ
6	血液④	自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫を学ぶ
7	心臓と循環①	心臓の構造と働きを学ぶ
8	心臓と循環②	心臓の自動性と刺激電動系について学ぶ
9	心臓と循環③	心電図の記録法と各波形の意味を学ぶ
10	心臓と循環④	心拍出量と血圧について学ぶ
11	心臓と循環⑤	血圧の調節メカニズムを学ぶ
12	心臓と循環⑥	微小循環における物質交換を学ぶ
13	呼吸とガスの運搬①	気道の構造とその役割を学ぶ
14	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動と呼吸器気量の分画を学ぶ
15	呼吸とガスの運搬③	ガス交換・ガス運搬を学ぶ

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	呼吸とガスの運搬④	化学受容器と呼吸の調節を学ぶ
17	消化と吸収①	消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ
18	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ
19	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ
20	消化と吸収④	肝臓、膵臓の構造と役割を学ぶ
21	腎臓と排泄①	腎臓の構造と役割を学ぶ
22	腎臓と排泄②	尿の生成メカニズムを学ぶ
23	腎臓と排泄③	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ
24	腎臓と排泄④	畜尿反射と排尿反射を学ぶ
25	酸塩基平衡①	血漿pH調節について学ぶ
26	酸塩基平衡②	アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
30	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成 績 評 価		☒ 定期試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参 考 書		消っして忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名		生理学Ⅱ					担当教員		中西 宏之			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係わった経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。									
授 業 概 要			生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。									
到 達 目 標			生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	内分泌①				ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ							
2	内分泌②				ホルモンの分泌調節を学ぶ							
3	内分泌③				下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ							
4	内分泌④				副腎皮質・髄質・膵臓・性腺などのホルモンを学ぶ							
5	筋と骨①				骨格筋の構造と機能を学ぶ							
6	筋と骨②				骨格筋の収縮メカニズムを学ぶ							
7	筋と骨③				筋紡錘・ゴルジ腱器官を学ぶ							
8	筋と骨④				心筋・平滑筋と骨について学ぶ							
9	神経系①				神経細胞の構造を学ぶ							
10	神経系②				興奮の発生と伝道を学ぶ							
11	神経系③				神経線維の種類を学ぶ							
12	神経系④				シナプスについて学ぶ							
13	末梢神経①				末梢神経の分類について学ぶ							
14	末梢神経②				脳神経・脊髄神経を学ぶ							
15	末梢神経③				交感神経・副交感神経を学ぶ							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	末梢神経④	神経伝達物質について学ぶ
17	中枢神経①	脊髄の構造と機能を学ぶ
18	中枢神経②	脊髄反射を学ぶ
19	中枢神経③	延髄・橋・中脳・視床・視床下部・小脳の構造と機能を学ぶ
20	中枢神経④	大脳皮質、睡眠、脳脊髄液、血液脳関門について学ぶ
21	感覚①	体性感覚、内臓感覚を学ぶ
22	感覚②	聴覚・平衡感覚を学ぶ
23	感覚③	視覚について学ぶ
24	感覚④	嗅覚・味覚について学ぶ
25	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ
26	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ
27	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ
28	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ
29	後期復習①	小テストを利用して後期の復習を行う
30	後期復習②	小テストを利用して後期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参 考 書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名		運動学				担当教員		山本 英夫			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、上肢、下肢、体幹の機能、運動について講義を行う。									
授業概要		運動学の基礎となる力やてこなどの生体力学や、関節の基本構造、筋の収縮の様式や関係する神経機能について学習する。また、上肢、下肢、体幹の各関節の特徴と機能、運動について学習する。									
到達目標		身体関節の特徴と運動について理解し説明できる。靱帯やその他の器官の機能を理解し説明できる。人の「動き」を理解しイメージできる、またそれを他に説明できる。									
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	肩甲帯・肩関節の運動学①	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
2	肩甲帯・肩関節の運動学②	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
3	肩甲帯・肩関節の運動学③	肩の運動に関係する筋の働きについて学習する。									
4	肘関節の運動学	肘（腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
5	前腕の運動学①	前腕（上橈尺関節、下橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
6	前腕の運動学②	肘関節、前腕の運動に関係する筋の働きについて学習する。									
7	手関節の運動学	手関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
8	手指の運動学①	手と手指を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
9	手指の運動学②	母指の運動について学習する。手指屈筋、伸筋機構について学習する。									
10	手指の運動学③	手関節、母指、手指の運動に関係する筋の働きについて学習する。									
11	脊柱の運動学①	脊柱を構成している椎間板、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。									
12	脊柱の運動学②	頸椎の構造と、その特徴や機能を学習する。									
13	脊柱の運動学③	胸椎、腰椎の構造と、その特徴や機能を学習する。呼吸運動について学習する。									
14	脊柱の運動学④	脊柱の運動に関係する脊柱起立筋や腹筋などについて学習する。									
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。									
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。									
成績評価		☒ 定期試験（ 60 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 40 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学（医学書院）									
参考書		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）									
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。									

科目名		運動学（下肢）					担当教員		宮崎 慎二			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			10年以上理学療法士として病院勤務した経験に基づき、理学療法士の視点で運動学を教授する。									
授 業 概 要			本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、上肢、下肢、体幹の運動学に関する基礎的な知識を学習する。1年時に履修する解剖学、運動学Ⅰを踏まえ、各関節の運動に着目する。臨床運動学、臨床動作分析、理学療法評価学、運動療法学を履修する上での基礎となる。									
到 達 目 標			身体関節の特徴的な構造と機能を説明できる。また、関節の動きや筋の作用を理解し、各関節のみでなく全身の動きの中で理解することができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				運動学とは何か。学習の仕方など。							
2	下肢帯と下肢の運動				下肢帯と下肢の骨格・筋、下肢の脈管、下肢の運動軸							
3	骨盤				骨盤の構成、体表からの指標							
4	股関節①				股関節の骨、頸体角と前捻角、股関節の靱帯							
5	股関節②				股関節の筋							
6	股関節③				股関節の運動							
7	膝関節①				膝関節の骨、膝蓋骨、半月板、靱帯							
8	膝関節②				膝関節の筋							
9	膝関節③				膝関節の動き、ScrewHomeMovement							
10	足関節・足部①				足関節・足部の骨・連結							
11	足関節・足部②				足関節の靱帯、筋							
12	足関節・足部③				足関節の運動、足部の変形							
13	姿勢①				姿勢とは何か。重心、重心線							
14	姿勢②				立位姿勢の安定性							
15	まとめ				まとめ							
準備学習(予習復習)の具体的な内容			基礎科学、解剖学、生理学などの基礎科目、専門基礎科目の理解が必要であるため日々の復習は必須。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書			標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 運動学：医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版									
参 考 書			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学：医学書院									
授業の留意点・備考												

科目名	生理学演習	担当教員	羽山 和子
-----	-------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	大学より理学を専攻し、理学博士を取得。 現在まで多くの学校の非常勤講師として生理学・生理学演習の講義を行ってきた。										
授業概要	1年次で学んだ生理学を基礎とする。主要なテーマについて、検査・測定を行い、結果を分析・解釈し、レポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。										
到達目標	生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。 人の体と心を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。 治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。 得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。										

授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	オリエンテーション A. 血圧測定Ⅰ					血圧計の原理と取り扱い方					
2											
3	B. 血圧測定Ⅱ					運動負荷前後の血圧の変化					
4											
5	C. 筋電図測定Ⅰ					ポリグラフシステムの使い方 筋力と筋電活動振幅との関係、筋疲労					
6											
7	D. 筋電図測定Ⅱ					肘関節屈曲と前腕回外 肢位と共同筋の組み合わせ					
8											
9	E-1 運動神経伝導速度測定Ⅰ					オシロスコープシステムの使い方 運動神経伝導速度の測定Ⅰ(各班1人)					
10											
11	中間講評、6つのテーマを各班順繰りで行う ローテーション方式の説明、解説(触圧点・ 痛点、温点・冷点、スパイロメトリー)					【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. ス パイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測 定】					
12											
13	解説(心電図測定)、ローテーション実習①					【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. ス パイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測 定】					
14											
15	解説(エルゴメータによる体力測定)					【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. ス パイロメトリー、					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	ローテーション実習②	I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定]
17	ローテーション実習③	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定]
18		
19	ローテーション実習④	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定]
20		
21	ローテーション実習⑤	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定]
22		
23	ローテーション実習⑥	【E-2. 運動神経伝導速度測定Ⅱ、F. 触圧点・痛点、G. 温点・冷点、H. スパイロメトリー、I. 心電図の測定と解析、J. エルゴメータによる体力測定]
24		
25	K. 感覚検査	K. 2点識別域とその他の感覚検査
26		
27	L. カエルの解剖、講評	L. カエルの解剖、講評
28		
29		
30	総復習	
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業前にテキストを読んで、内容を理解しておく
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 40 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 60 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		講師が準備する
参 考 書		フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア 運動学実習 医歯薬出版 リハビリテーション運動生理学 メジカルビュー社
授業の留意点・備考		各テーマにふさわしい服装で参加する。 自分自身で考えて行動する。 グループの一員として他の構成員を気づかい、協力して、グループ全体の働きをより良くする。

科目名		臨床運動学Ⅰ					担当教員		山下 俊			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		運動に対する身体機能の反応と変化を運動器疾患リハビリテーションの経験を基に講義・演習を										
授 業 概 要		解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常（健常）の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうることを推測できるようになるための基盤を習得する。										
到 達 目 標		姿勢、基本動作、歩行などのヒトの正常（健常）な動作を理解する。 正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験を解釈できるようになる。 姿勢における重心位置や姿勢制御について説明することができる。 基本動作における正常パターンについて説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	運動力学の基礎				身体運動のメカニズムや身体構造の仕組みを理解する。							
2	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス①				身体に作用する力と運動の関係、身体重心について理解する。							
3	姿勢と姿勢制御のバイオメカニクス②				実際に運動を行い、身体重心の移動のメカニズムを理解する。							
4	起居動作（寝返り）①				寝返り動作の運動パターンを理解する。							
5	起居動作（起き上がり）②				起き上がり動作の運動パターンを理解する。							
6	起居動作（寝返り・起き上がり）③				実際に寝返り・起き上がり運動を行い、メカニズムを理解する。							
7	起立・着座①				起立・着座動作の運動パターンを理解する。							
8	起立・着座②				実際に起立・着座動作を行い、メカニズムを理解する。							
9	下肢の臨床運動学				下肢の解剖・運動学を理解し、歩行動作と関連付ける。							
10	正常歩行①				正常歩行の運動パターンを理解する。							
11	正常歩行②				歩行動作を可能にするメカニズムを理解する。							
12	正常歩行③				実際に歩行を行い、メカニズムを理解する。							
13	様々な動作の観察①				（グループワーク）①寝返り・起き上がり、②起立・着座、③歩行を行い、それぞれの動作を分析する。							
14	様々な動作の観察②				（グループワーク）動作の分析を行い、各グループで討論し理解度を高める。							
15	様々な動作の観察③				（グループワーク）それぞれの動作分析の結果を発表・報告する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1年次に学習した解剖・運動学を復習すること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☐ その他（ %）										
教 科 書		基礎運動学 第6版補訂：医歯薬出版株式会社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際：MEDICAL VIEW 観察による歩行分析：医学書院										
参 考 書		プロメテウス解剖アトラス 解剖総論運動器系 第3版：医学書院、動作のメカニズムがよくわかる 実践！ 動作分析：医歯薬出版株式会社、日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ：医歯薬出版株式会社										
授業の留意点・備考		動作観察および分析を行い、グループワークを行うためパソコン・動画を撮影できるものを準備すること。 尚、使用する際は事前に準備の連絡を行う。 演習を行う際は、軽装の準備をすること。										

科目名		人間発達学					担当教員		山本 麻代			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			小児臨床に携わった経験を活かし、リハビリテーションにおいて理解すべき小児の運動発達について講義・指導ができる									
授 業 概 要			小児の運動発達の基盤となる発達概念、発達理論を理解し、姿勢反射、反応から始まる正常な運動発達を時期とともに段階的に学ぶ。									
到 達 目 標			正常な小児の運動発達を学習し、どのような順番で運動を獲得していくのかを説明できる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				映像をみながら小児の運動発達のイメージを作る。（DVD）							
2	発達概念				人間発達を表現する用語や発達の流れを学ぶ。							
3	人間発達（発達理論）				発達理論モデルを理解する。							
4	姿勢反射・反応①				姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。							
5	姿勢反射・反応②				姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。							
6	運動発達（0～3ヶ月）①				0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
7	運動発達（0～3ヶ月）②				0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
8	運動発達（4～6ヶ月）				4～6ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
9	運動発達（7～9ヶ月）				7～9ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
10	運動発達（10～12ヶ月）				10～12ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
11	運動発達（13～18ヶ月）				13～18ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。							
12	上肢機能の発達				上肢機能と物の操作の発達を学ぶ。							
13	ADLの発達①				遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。							
14	ADLの発達②				遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。							
15	感覚・知覚・認知・社会性の発達				感覚・知覚・認知・社会性の大きな発達を学ぶ。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			1コマごとに小テスト、課題プリントを出すので、授業の復習をしながら毎回の課題に取り組むこと。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版株式会社									
参 考 書												
授業の留意点・備考			課題の締め切りは必ず守ること。									

科目名	基礎医学演習Ⅲ					担当教員	竹本 舞				
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床経験を活かして、基礎医学について、講義を行う。									
授業概要		検査測定実習に向けて、基礎医学の知識を定着させると共に、検査測定ノートの書き方を習得する。									
到達目標		・各疾患と症状について説明ができる。 ・検査測定において前提となる基礎知識の説明ができる。 ・検査測定後のアセスメントの表記ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	各疾患の症状の調べ学習①					各疾患（脳血管障害、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折）についてグループで調べ学習を行う。					
2	各疾患の症状の調べ学習②					各疾患（脳血管障害、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折）についてグループで調べ学習を行う。					
3	各疾患の発表					各疾患（脳血管障害、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折）についてグループ発表を行う。					
4	形態測定①					形態測定の意義、測定結果の原因について学習する。					
5	形態測定②					形態測定を実施する。					
6	形態測定③					形態測定後のアセスメントを表記する。					
7	ROM測定①					ROM測定の意義、拘縮と強直の違い、ROM制限因子を学習する。					
8	ROM測定②					ROM測定を実施する。					
9	ROM測定③					ROM測定後のアセスメントを表記する。					
10	脳神経検査①					脳神経検査の意義、中枢性・末梢性の障害像を学習する。					
11	脳神経検査②					脳神経検査を実施する。					
12	脳神経検査③					脳神経検査後のアセスメントを表記する。					
13	反射①					反射検査の意義、腱反射のメカニズム、反射の種類と病的意義を学習する。					
14	反射②					反射検査を実施する。					
15	反射③					反射検査後のアセスメントを表記する。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		基礎専門分野の解剖学や生理学の知識を復習しながら理解を深めてください。									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 80 %） ☒ 発表（ 20 %） ☐ その他（ %）									
教科書		標準作業療法学 作業療法評価学 第3版：医学書院									
参考書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		演習は検査測定実習を想定して実習着で行います。									

科目名	基礎医学演習Ⅳ					担当教員	竹本 舞				
-----	---------	--	--	--	--	------	------	--	--	--	--

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床経験を活かして、基礎医学について、講義を行う。									
授 業 概 要		検査測定実習に向けて、基礎医学の知識を定着させると共に、検査測定ノートの書き方を習得する。									
到 達 目 標		- 各疾患と症状について説明ができる。 - 検査測定において前提となる基礎知識の説明ができる。 - 検査測定後のアセスメントの表記ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	各疾患の症状の調べ学習①					各疾患（脊髄損傷、パーキンソン病、関節リウマチ、上腕骨骨折）についてグループで調べ学習を行う。					
2	各疾患の症状の調べ学習②					各疾患（脊髄損傷、パーキンソン病、関節リウマチ、上腕骨骨折）についてグループで調べ学習を行う。					
3	各疾患の発表					各疾患（脊髄損傷、パーキンソン病、関節リウマチ、上腕骨骨折）についてグループ発表を行う。					
4	MMT①					筋力検査の意義、筋力低下を起こす要因、筋力低下の原理と背景について学習する。					
5	MMT②					MMTを実施する。					
6	MMT③					MMT後のアセスメントを表記する。					
7	Sensory①					感覚検査の意義、感覚障害による影響、感覚の種類、感覚伝導路を学習する。					
8	Sensory②					感覚検査を実施する。					
9	Sensory③					感覚検査後のアセスメントを表記する。					
10	Br. Stage①					片麻痺機能検査の意義、下行性伝導路を学習する。					
11	Br. Stage②					片麻痺機能検査を実施する。					
12	Br. Stage③					片麻痺機能検査後のアセスメントを表記する。					
13	復習①					検査・測定の実技練習を行う。					
14	復習②					検査・測定の実技練習を行う。					
15	検査・測定演習					1年生を被検者にして検査・測定演習を行う。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		基礎専門分野の解剖学や生理学の知識を復習しながら理解を深めてください。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 75 %） ☒ 発表（ 25 %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		標準作業療法学 作業療法評価学 第3版：医学書院									
参 考 書		適宜資料を配布									
授業の留意点・備考		演習は検査測定実習を想定して実習着で行います。									

科目名		基礎医学特論演習					担当教員		作業療法学科教員		
学科	作業療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野において教授する。									
授 業 概 要		作業療法専門基礎領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。									
到 達 目 標		作業療法専門基礎領域の知識を習得する。 解剖学、生理学、病理学、運動学、人間発達学、小児科学、内科学、臨床神経医学、臨床心理学、精神医学、整形外科、リハビリテーション概論における用語を説明することが出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	解剖学①			解剖学の知識を習得する。							
2	解剖学②			解剖学の知識を習得する。							
3	解剖学③			解剖学の知識を習得する。							
4	解剖学④			解剖学の知識を習得する。							
5	解剖学⑤			解剖学の知識を習得する。							
6	解剖学⑥			解剖学の知識を習得する。							
7	生理学・病理学①			生理学・病理学の知識を習得する。							
8	生理学・病理学②			生理学・病理学の知識を習得する。							
9	生理学・病理学③			生理学・病理学の知識を習得する。							
10	生理学・病理学④			生理学・病理学の知識を習得する。							
11	生理学・病理学⑤			生理学・病理学の知識を習得する。							
12	生理学・病理学⑥			生理学・病理学の知識を習得する。							
13	運動学①			運動学の知識を習得する。							
14	運動学②			運動学の知識を習得する。							
15	運動学③			運動学の知識を習得する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	運動学④	運動学の知識を習得する。
17	人間発達学・小児科学①	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
18	人間発達学・小児科学②	人間発達学・小児科学の知識を習得する。
19	内科学①	内科学の知識を習得する。
20	内科学②	内科学の知識を習得する。
21	臨床精神医学①	臨床精神医学の知識を習得する。
22	臨床精神医学②	臨床精神医学の知識を習得する。
23	臨床心理学①	臨床心理学の知識を習得する。
24	臨床心理学②	臨床心理学の知識を習得する。
25	精神医学①	臨床医学の知識を習得する。
26	精神医学②	臨床医学の知識を習得する。
27	整形外科学①	整形外科学の知識を習得する。
28	整形外科学②	整形外科学の知識を習得する。
29	リハビリテーション概論①	リハビリテーション概論の知識を習得する。
30	リハビリテーション概論②	リハビリテーション概論の知識を習得する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		特になし。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし。

科目名		臨床心理学					担当教員		井田 博子			
学科	作業療学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修		
担当教員の実務経験		臨床心理士（カウンセラー）としての経験から、来談者の力を引き出し支援する様々のとりくみを紹介し、リハビリテーション実践に活かせる視点を提供したい。										
授 業 概 要		臨床心理学の中心的な課題を、実際の観点から深め、人間理解と臨床のセンスの基礎を身につけられるようにする。										
到 達 目 標		臨床心理学の基礎を学び、対人関係を有効に用いた支援から、リハビリテーション実践に役立つ観点を身につける。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション「自我の強さと悩む力」				自我の強さは年齢によって、経験によって、育つものであることを学ぶ。							
2	心理査定と心理療法				心理的支援の前に来談者の状況や問題点等をとらえることの重要性を示す。							
3	個人療法と集団療法				来談者とセラピストの1対1関係だけでなく、グループを用いる治療についても学ぶ。							
4	家族療法とその他の心理療法				子どもの問題では、家族間コミュニケーションの調整が有効であることを学ぶ。							
5	ストレスと心理的反応				多忙やコミュニケーション不全等の様々のストレスと心身の不調について考える。							
6	心の病のいろいろ				体質的問題の大きいものや、生育上の環境に関連するもの等の紹介をする。							
7	文化や文明とストレス				ハイテクの生活環境と心身の自然について考える。							
8	心の健康				日頃からとりくむ心の健康への留意点を紹介する。							
9	心理テストの種類				心理テストから理解される個人差（個性）について考える。							
10	性格と無意識の行動				本人の行動パターンには自覚できる部分と無自覚の部分があることを知る。							
11	性格とストレス耐性				本人の認知や行動のパターンとストレスへの強さ弱さについて考える。							
12	自己理解と他者理解				思春期・青年期の友だち関係などから自・他の理解が広がることを学ぶ。							
13	事例から学ぶ（1）				日常の対人関係でも出会う、了解できにくい言動について考える。							
14	事例から学ぶ（2）				他者の言動の理不尽さに巻き込まれた事例の紹介。							
15	事例から学ぶ（3）				自らの言動の理不尽さに気づいた事例の紹介。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		シラバスや配布された資料をよく読み、なじみのない言葉や言葉づかいは、辞書で調べておき、はっきりしない場合は質問すること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ ）										
教 科 書		講師の先生が資料を準備										
参 考 書		宇治原寛・杉原保史共編『臨床心理学入門 理解と関わりを深める』（1998）培風館										
授業の留意点・備考		この教科の配布資料は、他の教科のものとは別に、単独のファイルにすること。										

科目名		病理学					担当教員		熊本大学大学院			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			病理疾患の研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要			適切なりハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。									
到 達 目 標			・ 専門科目の学習に必要な最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 ・ 疾病の基礎的な概念を理解している ・ 主な疾病の病態生理について説明できる。 ・ 問題解決型の学習法を修得している。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション 病因論：先天異常				病理学の概要、病因論（外因性疾患と内因性疾患）について学ぶ。							
2	病因論：感染症				日和見感染症、誤嚥性肺炎、結核症、肝炎ウイルスについて学ぶ。							
3	炎症と免疫				炎症症状と徴候、基本病変、治療、分類や様々な免疫反応、免疫不全等について学ぶ。							
4	腫瘍学総論				腫瘍の分類、形態学、組織学的特徴について学ぶ。							
5	循環障害				循環器系の概要、構成、全身の循環障害、局所の循環障害について学ぶ。							
6	病理学各論：循環器				虚血性心疾患、心筋症、心筋炎、先天性心疾患等について学ぶ。							
7	退行性・進行性病変				萎縮の種類について、褥瘡の原因、壊死とアポトーシスの違い、肥大と過形成等について学ぶ。							
8	運動骨格器				骨粗鬆症の病態について、骨折修復のメカニズム等について学ぶ。							
9	病理学各論：消化管				各疾患について学ぶ。							
10	病理学各論：肝・胆嚢・膵				肝障害、代謝異常、胆嚢および胆道、膵炎等について学ぶ。							
11	病理学各論：呼吸器				鼻炎・副鼻腔炎・鼻ポリープ、喉頭の疾患、肺の循環障害、肺の炎症性疾患等について学ぶ。							
12	病理学各論：血液疾患・泌尿器				赤血球系・白血球系・血小板・リンパ節の病理について学ぶ。 腎・尿管・膀胱の疾患について学ぶ。							
13	病理学各論：中枢神経				頭部外傷、脳卒中、脳内出血等について学ぶ。							
14	病理学補講				総復習①							
15	病理学補講				総復習②							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			講義ノートを復習する。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 100 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書												
参 考 書												
授業の留意点・備考			今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。									

科目名		内科学				担当教員		山下 昌洋			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		内科臨床と係った経験を活かし、地域リハビリテーションの実務に役立つ講義を行うことができる。									
授業概要		各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリント図表に入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。									
到達目標		①国家試験の過去問題（10年程度）を十分に理解し、トレーニングを行い、思考力を育てる。②教科書、講師からの資料を研習し、グループワークを行う場合には、積極的に参加し意見を発表する。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	呼吸器疾患（Ⅰ） 風邪症候群、その他				風邪を理解するために、症状の分析、原因を知り、診断する思考力を学ぶ。						
2	呼吸器疾患（Ⅱ） 閉塞性換気障害、拘束性換気障害				呼吸器の解剖、病理を復習し、代表的な疾患について学習する。						
3	循環器（Ⅰ）				循環器の解剖、病理を理解する。浮腫の診断ができる。						
4	循環器（Ⅱ）				虚血性心疾患、左心不全、右心不全を理解する。						
5	循環器（Ⅲ）				高血圧、末梢循環について学ぶ。						
6	糖尿病				糖尿病とは、合併症、低血糖症状を理解する。						
7	消化器疾患				主な疾患について学ぶ。						
8	肝疾患				ウイルス肝炎、肝硬変症、門脈硬直症その他について学ぶ。						
9	内分泌				内分泌異常について学ぶ。						
10	膠原病				膠原病、自己免疫疾患などについて学ぶ。						
11	メタボリックとフレイル				メタボリックシンドローム、内臓脂肪と皮下脂肪、高齢者に見られるフレイル・サルコペニアについて学ぶ。						
12	感染症				感染症、院内感染対策、標準予防法について学ぶ。						
13	老年症候群、廃用症候群				高齢者の特有な疾患の内部障害を理解し、リハビリの臨床に役立たせる。						
14	その他の内科疾患、腎不全など				主な疾患について学ぶ。						
15	まとめ、復習				期末試験の対応について学ぶ。						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		レポート（小テスト）を各テーマ毎に提出する。復習予習することで正確な解答を提出し、問題を解く思考力を育てる。									
成績評価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書		PT・OT国家試験 専門基礎分野 臨床医学 2020：医歯薬出版									
参考書		①病気がみえる vol.1～6、vol.8：メディックメディア ②クエスチョンバンクPT・OT国家試験問題解説2020：メディックメディア									
授業の留意点・備考		内科学は単なる記憶の繰り返しではなく、症状を分析し、病理・解剖学などの知識を元に診断する。思考力が必要であることも理解する。									

科目名		整形外科学Ⅰ					担当教員		岩北 耕三			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。									
授 業 概 要			理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標			運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論				整形外科の定義や領域を総合的に講義する。							
2	整形外科基礎知識				整形外科に必要な骨・軟骨・関節について講義する。							
3	整形外科基礎知識				整形外科に必要な筋・神経について講義する。							
4	整形外科の検査				整形外科で行われる基本的検査について講義する。							
5	整形外科の治療				整形外科疾患に対する治療法について講義する。							
6	疾患各論：炎症性疾患①（総論・感染症）				炎症性疾患の総論・感染症について講義する。							
7	疾患各論：炎症性疾患③（リウマチ）				炎症性疾患のリウマチについて病態、診断、治療法について講義する。							
8	疾患各論：炎症性疾患③（肩関節周囲炎）				肩関節周囲炎の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
9	疾患各論：代謝・内分泌性疾患				代謝・内分泌性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
10	疾患各論：退行性疾患①（退行性疾患）				退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
11	疾患各論：退行性疾患②（退行性疾患）				退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
12	疾患各論：退行性疾患③（退行性疾患）				退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
13	疾患各論：脊椎疾患①				脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
14	疾患各論：脊椎疾患②				脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。							
15	まとめ				これまでの講義のまとめを行う。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア									
参 考 書			標準整形外科学 第13版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第4版									
授業の留意点・備考			・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。									

科目名		整形外科Ⅱ					担当教員		岩北 耕三			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。									
授 業 概 要			理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標			運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・総論				整形外科Ⅱで取り扱う内容の説明とオリエンテーションを行う。							
2	疾患各論：脊髄損傷・脊椎骨折				脊髄損傷・脊椎骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
3	疾患各論：上肢の骨折①				代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
4	疾患各論：上肢の骨折②				代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
5	疾患各論：下肢の骨折①				代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
6	疾患各論：下肢の骨折②				代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。							
7	疾患各論：骨折補足				骨折のトピックスやその他の事項について講義する。							
8	疾患各論：捻挫と脱臼				代表的な捻挫と脱臼の病態、診断、治療法について講義する。							
9	疾患各論：末梢神経障害				代表的な末梢神経障害の病態、診断、治療法について講義する。							
10	疾患各論：骨軟部腫瘍/循環障害				代表的な骨軟部腫瘍/循環障害の病態、診断、治療法について講義する。							
11	疾患各論：腱・靱帯における外傷性疾患				代表的な腱・靱帯損傷の病態、診断、治療法について講義する。							
12	疾患各論：スポーツ傷害①				代表的なスポーツ傷害の病態、診断、治療法について講義する。							
13	疾患各論：スポーツ傷害②				代表的なスポーツ傷害の病態、診断、治療法について講義する。							
14	まとめ				整形外科Ⅱのまとめを行う。							
15	まとめ				整形外科Ⅱのまとめを行う。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 20 ％） ☐ 課題 （ ％） ☒ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア									
参 考 書			標準整形外科 第13版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 第4版									
授業の留意点・備考			・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。									

科目名		神経内科学Ⅰ					担当教員		阪本 徹郎・倉富 晶 中原 圭一・中瀬 卓			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			阪本 徹郎：2001年～現在 医師 中原 圭一：2003年～現在 医師					倉富 晶：2011年～現在 医師 中瀬 卓：2015年～現在 医師				
授 業 概 要			神経内科学的疾患（特に脳梗塞や神経変性疾患など、成人の運動機能障害を生じる疾患を中心に）の概説を行う。									
到 達 目 標			代表的な神経疾患の病態と診断、治療について総合的に理解する。具体的には、神経系の構成を理解し、機能障害が発生した場合にどのような症状が現れるか理解する。その障害に対し有効な治療（根治的／対症療法的／予防的、リハビリテーション／薬剤／その他）について、総合的に理解する。それを基礎に、神経疾患治療におけるリハビリテーションの目標・役割について理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	中枢神経系の解剖と機能				神経系の構成，中枢神経の構造・機能，末梢神経							
2	神経学的診断と評価				診察手順，障害の評価							
3	神経学的検査法				画像診断，神経生理学的検査，自律神経機能検査，腰椎穿刺							
4	意識障害、脳死、植物状態／ 頭痛、めまい、失神				意識障害の原因，脳死，植物状態／頭痛の分類，めまい，失神							
5	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮／ 錐体外路徴候、不随意運動				運動麻痺の分類・原因・評価，筋萎縮の分類・評価／ 錐体外路の解剖・機能とその障害							
6	運動失調／感覚障害				運動失調の原因・評価／感覚障害の分布と特徴							
7	高次脳機能障害①				総論，失語症，失認							
8	高次脳機能障害②				失行，記憶障害							
9	高次脳機能障害③				注意障害，遂行機能障害，構音障害，嚥下障害							
10	脳神経外科領域／脳血管障害①				頭蓋内圧亢進，脳浮腫，脳ヘルニア，髄膜刺激症状／頭蓋内出血							
11	脳血管障害②				脳梗塞，一過性脳虚血発作							
12	脳血管障害③				脳血管障害の診断と治療							
13	認知症				認知症の症状と病因，診断と治療							
14	脳腫瘍／外傷性脳損傷				脳腫瘍の診断と分類／外傷性脳損傷の診断と治療							
15	予備日				前期のまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			授業前にあらかじめ、講義内容を教科書で予習することが望まれる。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)									
参 考 書			病気がみえるvol.7脳・神経 第2版(メディックメディア)									
授業の留意点・備考			スライド映写（主要なスライドは配布資料を作成する）と教科書を主体に講義形式での授業を進める。									

科目名		神経内科学Ⅱ					担当教員		阪本 徹郎・倉富 晶 中原 圭一・中瀬 卓			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			阪本 徹郎：2001年～現在 医師 倉富 晶：2011年～現在 医師 中原 圭一：2003年～現在 医師 中瀬 卓：2015年～現在 医師									
授 業 概 要			神経内科学的疾患（特に脳梗塞や神経変性疾患など、成人の運動機能障害を生じる疾患を中心に）の概説を行う。									
到 達 目 標			代表的な神経疾患の病態と診断、治療について総合的に理解する。具体的には、神経系の構成を理解し、機能障害が発生した場合にどのような症状が現れるか理解する。その障害に対し有効な治療（根治的／対症療法的／予防的、リハビリテーション／薬剤／その他）について、総合的に理解する。それを基礎に、神経疾患治療におけるリハビリテーションの目標・役割について理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	脊髄疾患①				脊髄損傷							
2	脊髄疾患②				脊髄腫瘍							
3	変性疾患、脱髄疾患①				脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患							
4	変性疾患、脱髄疾患②				脱髄疾患							
5	錐体外路の変性疾患①				パーキンソン病							
6	錐体外路の変性疾患②				パーキンソン症候群、不随意運動を主症状とする疾患							
7	末梢神経障害				末梢神経損傷、末梢性ニューロパチー							
8	てんかん				てんかんの診断と治療							
9	筋疾患①				進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、先天性ミオパチー							
10	筋疾患②				多発性筋炎、周期性四肢麻痺、内分泌代謝性筋疾患、筋無力症							
11	感染性疾患				髄膜炎、脳炎・脳症、脳膿瘍、神経梅毒、クロイツフェルト・ヤコブ病、他							
12	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患				水銀中毒、有機リン系農薬中毒、一酸化炭素中毒、ボツリヌス中毒、他							
13	小児神経疾患／ 廃用症候群と誤用症候群、合併症				脳性麻痺、二分脊椎、他／廃用症候群、誤用症候群、合併症							
14	排尿障害／性機能障害				排尿のメカニズム、神経因性膀胱／性機能障害							
15	予備日				後期のまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			授業前にあらかじめ、講義内容を教科書で予習することが望まれる。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)									
参 考 書			病気がみえるvol.7脳・神経 第2版(メディックメディア)									
授業の留意点・備考			スライド映写（主要なスライドは配布資料を作成する）と教科書を主体に講義形式での授業を進める。									

科目名		脳神経外科学					担当教員		斎藤 義樹			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			脳神経疾患の治療や研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要			神経解剖や脳神経疾患について基本的な知識を概説する。									
到 達 目 標			リハビリテーションにおける脳神経外科学の重要性を理解し実臨床に活用できるようにする。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	神経系の解剖 1				中枢神経、末梢神経、脳血管、脳脊髄液、等							
2	神経系の解剖 2				錐体路、錐体外路、知覚伝導路、等							
3	脳血管障害 1				脳出血、くも膜下出血、等							
4	脳血管障害 2				脳梗塞、一過性脳虚血発作、等							
5	頭部外傷				急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、脳挫傷、等							
6	脳腫瘍				脳実質内腫瘍、脳実質外腫瘍、神経皮膚症候群、等							
7	脊髄・脊椎疾患				脊髄空洞症、脊髄腫瘍、脊髄半切症候群、等							
8	機能的脳神経外科				片側顔面けいれん、三叉神経痛、不随意運動、等							
9	先天異常				二分頭蓋、二分脊椎、等							
10	中枢神経系の感染症				髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、等							
11	障害部位と神経症状 1				錐体路障害、錐体外路障害、等							
12	障害部位と神経症状 2				頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、等							
13	障害部位と神経症状 3				意識障害、高次脳機能障害、等							
14	まとめ 1				問題を解説しながら疾患の理解を深める							
15	まとめ 2				問題を解説しながら疾患の理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書を読んでおく。講義ノートを復習する。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 100 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版：医学書院									
参 考 書			なし									
授業の留意点・備考			私語を慎み周囲の人に迷惑をかけない。									

科目名		精神医学Ⅱ					担当教員		那須 美紀			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			精神科病院での勤務経験を活かし、臨床場面での内容を踏まえ、症候・疾患・治療について講義を行う									
授 業 概 要			基礎となる「精神医学Ⅰ」を履修した者として、医療に従事するために必要な精神疾患の概念を学び、将来、相対する患者さんに対し自ら判断し行動するための準備を促す。									
到 達 目 標			①各症候の特徴について理解する②各疾患の特徴について理解する③各疾患の発症機序、転帰、予後について理解する④各疾患の治療と援助について現状を理解し、考える。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・精神医療の歴史				世界と日本の精神科医療の歴史について学ぶ 歴史に沿った精神障害者の処遇について学ぶ							
2	社会・文化とメンタルヘルス				メンタルヘルスの問題（学校・職場・家庭）について学ぶ わが国における自殺問題について学ぶ							
3	症候論①				意識・知能・性格・記憶・感情とその障害について学ぶ							
4	症候論②				欲動及び意志・自我意識・知覚・思考・病識とその障害について学ぶ							
5	精神障害の診断と評価①				診断・評価の方法、面接、観察、病歴の聴取について学ぶ							
6	精神障害の診断と評価②				身体的評価法・心理検査法・精神症状の評価・社会生活・主観的QOL・操作的診断基準について学ぶ							
7	統合失調症について①				症状及び診断基準について・統合失調症の症状・脳の構造・機能異常について・神経学的仮説について学ぶ							
8	統合失調症について②				前駆期・急性期・休息期の特徴的臨床像について学ぶ							
9	統合失調症について③				統合失調症の認知障害について学ぶ							
10	気分障害について①				主な病型、うつ病の症状、発症の機制①について学ぶ							
11	気分障害について②				発症の機制②、うつ病の治療について学ぶ							
12	気分障害について③				双極性障害について、双極性障害の発症の機制、双極性障害の治療について学ぶ							
13	精神障害の治療とリハビリテーション①				インフォームド・コンセントの原則、治療の目標、治療・リハビリテーションの種類、薬物療法について							
14	精神障害の治療とリハビリテーション②				薬物処方の見方、身体療法について、精神療法について							
15	講義のまとめ				講義全体の振り返り、ポイントを再度示し講義内容を整理する							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			内容が広範囲に渡るため都度の復習を行っておくこと									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			標準PT・OT学 専門基礎分野 精神医学 第4版（医学書院）									
参 考 書			精神障害の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規）									
授業の留意点・備考												

科目名	小児科学						担当教員	田中 明/専任教員			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		小児科医の臨床経験を活かし、子どもの体の成長と機能の発達、健康状態の評価方法の基礎知識について講義を行う。また行政業務に携わった経験を活かし、社会福祉体系についても述べることができる。									
授 業 概 要		・子どもの出生から思春期にいたるまでの健康と発達を理解し、将来の社会人として最大限の能力を発揮できるように支援することを学ぶ。 ・子どもの体の生長と機能の発達の特徴を学び、その正常な生長と発達の障害の原因を理解する。如何にして子どもの健康状態を評価するかの基礎知識を得る。									
到 達 目 標		将来、医療に携わる専門職として不可欠な小児の生長と発達及び育児環境について社会体制を含め体系的な理解を得る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	小児科学とは			小児におけるライフステージ毎の課題を学ぶ。							
2	成長と発達			発達法則性、反射の発達の変化および正常発達を学ぶ。							
3	診断と治療			治療・訓練に必要な診察と検査の過程を学ぶ。							
4	新生児と未熟児			新生児および未熟児の現代の傾向と医学的評価方法を学ぶ。							
5	先天異常と遺伝病			先天異常の発生要因や、代表的な病気（ダウン症等）を学ぶ。							
6	神経・筋・骨格の疾患（1）			原因別の代表的な疾患（てんかん等）について学ぶ。							
7	神経・筋・骨格の疾患（2）			原因別の代表的な疾患（筋疾患、筋ジストロフィー等）について学ぶ。							
8	内分泌疾患			各種ホルモンの生理を理解し、小児の内分泌疾患を学習する。							
9	循環器疾患			循環器の生理を理解し、心機能障害（先天性・後天性）の臨床症状を学習する。							
10	呼吸器疾患			呼吸器の生理を理解し、呼吸機能の臨床症状や代表的疾患を学習する。							
11	眼科、耳鼻科的疾患			視機能の発達と異常、聴覚障害の代表的疾患を学ぶ。							
12	心身医学的疾患			重症心身障害児特有の身体的問題と神経学的問題を学ぶ。							
13	消化器疾患			小児の消化器疾患の症状の特徴を学ぶ。							
14	小児科学トピックス			発達障害（ASD、LD、ADHD）の最新知見を学ぶ。							
15	代謝性疾患			代謝の生理を理解し、糖尿病の臨床症状や代表的疾患を学習する。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特になし。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版（医学書院）									
参 考 書		特になし。									
授業の留意点・備考		担当教員により授業計画は前後する。									

科目名		リハビリテーション医学					担当教員		金澤知徳・岩北耕三・竹本舞			
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			医師、理学療法士、作業療法士としてリハビリテーションに携わってきた経験をもとに、リハビリテーション医学とは何か、疾患別のリハビリテーションについての講義を行う。									
授 業 概 要			リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。									
到 達 目 標			リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 疾患別のリハビリテーションを説明できる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	リハビリテーション医学とは何か				(金澤) リハビリテーション概論についての理解							
2	リハビリテーション医学とは何か				(金澤) リハビリテーションの理念や領域①							
3	リハビリテーション医学とは何か				(金澤) リハビリテーションの理念や領域②							
4	リハビリテーション医学とは何か				(金澤) リハビリテーションのチーム医療							
5	脳卒中のリハビリテーション				(竹本) 疾患についての理解、病期別のリハビリテーション、具体的なアプローチ							
6	パーキンソン症候群のリハビリテーション				(竹本) パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション							
7	神経変性疾患、神経筋疾患のリハビリテーション				(竹本) 疾患についての理解、一般的治療と薬物療法、リハビリテーション治療の概要							
8	脊髄損傷のリハビリテーション				(竹本) 脊髄損傷の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
9	四肢切断のリハビリテーション				(岩北) 四肢切断の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
10	運動器疾患のリハビリテーション				(岩北) 運動器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
11	関節リウマチのリハビリテーション				(竹本) 疾患についての理解、一般的治療の流れ、リハビリテーション治療の要点							
12	脳性麻痺のリハビリテーション				(岩北) 脳性麻痺の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
13	心筋梗塞のリハビリテーション				(岩北) 心筋梗塞の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
14	呼吸器疾患のリハビリテーション				(岩北) 呼吸器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
15	生活習慣病のリハビリテーション				(岩北) 生活習慣病の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書や配布資料をよく読み復習すること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題 （ %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			PT・OT・STを目指す人のためのリハビリテーション総論 第2版：診断と治療社									
参 考 書			適宜資料を配布									
授業の留意点・備考			特記なし									

科目名		リハビリテーション概論					担当教員		有働 正二郎・平尾 浩志 林 学		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉の分野でかつ、リハビリテーションの各専門領域での経験を活かし、リハビリテーション全般についての講義を行うことができる。									
授 業 概 要		リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。									
到 達 目 標		リハビリテーションの概念理解が出来る。病気・障害・発達の概念理解が出来る。人間活動の階層構造が理解出来る。国際生活機能分類の概略が理解出来る。神経心理学・臨床心理学とその内容について説明出来る。リハビリテーションの過程と諸段階での課題について説明出来る。医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。リハビリテーションのプロセスと手段について説明出来る。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 障害者と社会			理学療法（士）及び作業療法（士）・言語聴覚（士）は法律にどのように規定されているのかを学ぶ （有働）							
2	リハビリテーションの定義と目的			リハビリテーションの言葉の由来や意味について学び、リハビリテーションの目的の変遷や社会制度の変革について学ぶ （有働）							
3	病気とは			病気の捉え方について、歴史的変遷について学ぶ （有働）							
4	障害とは			障害のモデル、特に国際障害分類（ICIDH）・国際生活機能分類（ICF）について学ぶ （有働）							
5	患者と障害者 慢性疾患モデル			患者と疾病行動や役割について学び、科学的根拠に基づく医療（EBM）やクリニカルパス、二次的障害や予防医学について学ぶ （有働）							
6	機能志向的アプローチ ヘルスケア・システムと包括的ケア			機能志向的アプローチについて学び、ヘルスケアの概要について学ぶ （有働）							
7	発達とは 人間活動			発達の定義を知り、発達研究や発達理論について概要を学ぶ （有働）							
8	リハビリテーションの過程			評価とはなにか、評価学の重要性を学ぶ （平尾）							
9	リハビリテーションの諸段階			医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション （平尾）							
10	チームアプローチ			リハ専門職の役割 （平尾）							
11	機能障害			疾病と外傷、先天異常及び精神障害 （平尾）							
12	地域リハビリテーションと高齢者対策			老人福祉法・老人保健法・介護保険制度 （平尾）							
13	リハビリテーションと心理 1			心理アセスメント （林）							
14	リハビリテーションと心理 2			心理的機能とその障害 （林）							
15	リハビリテーションと心理 3			心理的適応の過程 （林）							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書のすべてを授業では行いません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。									

科目名		社会福祉学					担当教員		紫藤 千子			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		保健医療福祉とリハビリテーションの理念					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として、長年にわたる福祉の現場での実践経験を踏まえて、より具体的な講義、GWなどの演習を行うことができる。									
授 業 概 要			私たちの生活を考察し、ライフスタイル、社会の変化について理解を深め、社会保障制度等の仕組みについて学ぶ。介護保険、障害者総合支援法、その他諸制度について学び理解を深める。また、制度改正に関しても情報提供を受け、時代の動きを理解する。クライアントをサポートするために必要な、医療・保健・福祉の連携について理解する。									
到 達 目 標			クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わっていくことを理解する。様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、考察する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	福祉とは				授業のオリエンテーション。「福祉とは」考えてみる。							
2	社会と生活のしくみ				「生活」について、家族、地域、社会の視点で学ぶ。地域共生社会について学ぶ。							
3	日本の社会保障制度①				社会保障の基本的な考え方を学ぶ。日本の社会保障制度の歴史を学ぶ。							
4	日本の社会保障制度② 現代社会と社会保障制度				日本の社会保障制度の歴史を知る。現代社会の特徴を学び、今後の社会保障の有馬田について考える。							
5	高齢者保健福祉				高齢者福祉の歴史を学び、これからの高齢社会を考える。							
6	介護保険法①				高齢者福祉に関する法体系を学ぶ。介護保険制度の背景と目的を学ぶ。							
7	介護保険法②				介護保険制度のしくみを理解する。専門職の役割。介護サービスについて学ぶ。							
8	介護保険制度③ 障がい者保健福祉①				介護保険制度の今後の動向について学ぶ。 障害者福祉の現状について学ぶ。							
9	障がい者保健福祉②				障がい者福祉の動向。障がい者福祉に関する法体系について学ぶ。							
10	障がい者総合支援制度				障害者総合支援法のしくみを学ぶ。							
11	個人の権利を守る制度①				権利擁護について学ぶ。虐待防止法の考え方、法制度について学ぶ。							
12	個人の権利を守る制度②				判断能力の低下した人の支援について学ぶ。							
13	貧困対策・生活困窮者支援制度				生活保護法、生活困窮者自立支援法のしくみを知る。							
14	認知症の理解				認知症について学び、認知症の理解を深める。							
15	認知症ケアについて				認知症の人への接し方を学び、考える。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書を読んでくる。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 10 ％） ☒ レポート（ 10 ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解（中央法規）									
参 考 書												
授業の留意点・備考			・グループワークを行う際は、積極的に参加すること。 ・授業中の私語はしないこと。									

科目名		法令・管理運営学					担当教員		那須美紀・山田勝久			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		病院での実務経験を活かし、作業療法士が医療・福祉分野で携わる上で必要となる法令及び運営に関する講義及び演習を行う										
授 業 概 要		病や障害を抱えて地域で生活することのイメージを上げ、障害者を取り巻く法の持つ意味を理解する										
到 達 目 標		①関連法規を列挙し、説明することができる②地域で生活する障害者の姿から、障害者が地域で生活することの課題を述べる③地域で障害者が生活を行う上で必要な生活支援の視点について説明することができる④地域で障害者が生活を行う上で活用できる社会資源を列挙することができる										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション・日本における保険システム・医療保険及び介護保険について				・授業概要のオリエンテーション ・日本における保険システムについてと医療保険及び介護保険の概要を学ぶ							
2	地域包括ケアシステムについて 地域包括支援センターの働きについて				地域包括ケアシステムに加え地域包括支援センターの働きについて学ぶ							
3	精神障害関連法規等①				精神障害者を取り巻く法の変遷を振り返り精神障害者と人権について討議する							
4	精神障害関連法規等②				精神保健福祉法、入院形態、精神障害者の権利擁護の仕組みについて理解する							
5	精神障害関連法規等③				心神喪失者等医療観察法について、法制定の背景と法の概要を学習する							
6	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について①				各班に分かれ、9・10回目に見学する施設の働きや関連する法規について調べ学習。学習したものを発表用にまとめる							
7	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について②				各班に分かれ、9・11回目に見学する施設の働きや関連する法規について調べ学習。学習したものを発表用にまとめる							
8	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について③				各班の調べ学習の発表。質疑・応答・教員より解説を行う							
9	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について④				各班に分かれ、障害者雇用促進法及び障害者総合支援法に関連する施設の見学を行う							
10	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について⑤				各班に分かれ、障害者雇用促進法及び障害者総合支援法に関連する施設の見学を行う							
11	障害者雇用促進法及び障害者総合支援法関連する施設について⑥				見学した施設についての発表。質疑・応答・教員より解説を行う							
12	障害者の権利を守る制度				障害者の権利を守る制度（日常生活自立支援事業・成年後見制度）についての概要を学ぶ							
13	管理運営概論・組織について				管理運営概論（人的資源、財務、患者情報、医療・事務機器）・組織について学ぶ							
14	リスクとは・リスクマネジメントとは				リスクとは、リスクマネジメントとは、ヒューマンエラーの要因及び対応について学ぶ							
15	個人情報保護法について				個人情報保護法についての概要・医療分野に関わる内容について学ぶ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義プリントは都度復習を行うこと										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 20 %） ☐ その他（ %）										
教 科 書		地域作業療法学（医学書院）、介護福祉士養成講座 社会の理解（中央法規）										
参 考 書		作業療法概論（医学書院）、教員が随時資料を配布										
授業の留意点・備考		施設見学、グループ学習など実施場所がその都度変わるので、授業の場所、内容等確認すること										

科目名		作業療法セミナー					担当教員		竹本 舞			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、作業療法士がいかなる職業であるかの講義を行う。										
授 業 概 要		本科目は、作業療法学科に入学した学生が作業療法・作業療法士について最初に学習する科目である。本科目では、まず作業療法士を目指す学生として相応しい態度や知識について理解し、作業療法士としての資質を身につけることが重要な目的となる。本科目で学んだ内容は、1年次にある「作業療法概論実習」において活かされることになる。										
到 達 目 標		・作業療法とは何かを説明することができる。 ・作業とは何かを説明することができる。 ・作業療法に求められる資質を理解することができる。 ・対象者に対する良好なコミュニケーションをとることができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	作業療法とは①				作業療法の過程、作業療法という名称について学習する。							
2	作業療法とは②				藤原茂氏「プロフェッショナル」のDVDを視聴し、作業療法について学ぶ。							
3	人と作業との関わり				作業とからだ、作業とところ、作業と意欲、治療手段の「作業」の意味を学習する。							
4	作業療法の対象と範囲				作業療法の対象と範囲を学習する。 教員インタビューのグループ分けとインタビュー内容を決定する。							
5	作業療法士に求められる資質と適性				教員インタビューを通して考えられる作業療法士に求められる資質と適性についてグループ発表を行う。							
6	障害体験①				高齢者体験、片麻痺体験、視覚障害体験を行う。							
7	障害体験②				「障害体験を通して感じたこと」レポート作成。							
8	各領域の作業療法の実際①				作業療法ジャーナルを閲覧し、各領域の作業療法の実際について学ぶ。							
9	各領域の作業療法の実際②				作業療法ジャーナルで興味を持った作業療法の実際について発表する。							
10	専門職としての職業倫理				倫理綱領、作業療法士の職業倫理指針を学習する。							
11	阿蘇宿泊研修オリエンテーション				阿蘇宿泊研修オリエンテーションを行い、医療、福祉に携わるセラピストを目指す学生としての自覚を養うと共に協調性の意義を学ぶ。							
12	援助的コミュニケーション①				阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。							
13	援助的コミュニケーション②				阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。							
14	援助的コミュニケーション③				阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。							
15	阿蘇宿泊研修振り返り				阿蘇宿泊研修を振り返り、「私が目指すOT像」レポートを作成する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書の予習・復習を十分に行うこと。										
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 50 %） ☐ その他（ ）										
教 科 書		ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 第2版：メジカルビュー社										
参 考 書		適宜資料を配布										
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。										

科目名		作業療法学概論					担当教員		竹本 舞			
学科	作業療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、作業療法士がいかなる職業であるかの講義を行う。										
授 業 概 要		本科目では、作業療法セミナーおよび作業療法概論実習を踏まえ、作業療法士がいかなる職業であるかを、より深く学習する。作業療法士が医療の専門職であることを明確に理解することが本科目の重要な目的である。										
到 達 目 標		・ 作業療法士の歴史・定義を説明することができる。 ・ 作業療法と関連する職種とチーム医療の重要性について理解することができる。 ・ 分野毎の作業療法の実践過程について理解することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	作業療法の歴史				作業療法の誕生から現在までの歴史を学習する。							
2	作業療法の定義				作業療法の定義を学習する。							
3	作業療法の対象①				身体障害、精神障害、発達障害の作業療法について学習する。							
4	作業療法の対象②				高齢期、高次脳機能障害、地域作業療法について学習する。							
5	チームアプローチ①				作業療法と関連する職種についてグループ毎に調べる。							
6	チームアプローチ②				作業療法と関連する職種についてグループ発表を行う。							
7	ICF①				ICFについて学習する。							
8	ICF②				仮想ケースのICF分類を行う。							
9	作業療法の実践課程①				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(竹本)							
10	作業療法の実践課程②				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(有働)							
11	作業療法の実践課程③				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(大石)							
12	作業療法の実践課程④				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(山田)							
13	作業療法の実践課程⑤				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(那須)							
14	作業療法の実践課程⑥				OT教員が経験してきた作業療法の実践課程について学習する。(野仲)							
15	まとめ				作業療法の歴史、定義、対象、ICFの知識の整理を行う。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書の予習・復習を十分に行うこと。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 20 %） ☐ その他（ ）										
教 科 書		ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論 第2版：メジカルビュー社										
参 考 書		適宜資料を配布										
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。										

科目名	基礎作業学							担当教員	大石 宝予		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療機関や福祉施設において作業を介した治療に携わった経験がある。									
授 業 概 要		作業が心身機能や活動にどのような影響を与えるのか理解を深める。作業が持つ特性や効用を考え、それがひとにどのような影響を与えるのか理解するための基礎となる作業分析を学ぶ。作業分析を通して、理論に基づいた作業が選択できる基礎的な能力を身につける。									
到 達 目 標		作業が作業療法に用いられる理由や治療手段としての作業の特性や分類を説明できる。作業分析を行うことができ、作業分析を行うことの重要性を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション イントロダクション			作業療法とは？作業療法における作業とは？ 作業の定義と作業療法で用いられる作業・作業学の範囲について学ぶ							
2	作業を用いた療法に関連する基本事項①			作業の種類と分類を学ぶ 作業療法における作業活動の歴史を学ぶ							
3	作業を用いた療法に関連する基本事項②			一般的な治療の目的と作業を治療に用いる条件について学ぶ							
4	作業の治療への適応			治療手段としての作業の特性を学ぶ 作業はどう使えば効果的か？作業療法のプロセスを学ぶ							
5	作業分析①			作業分析の全体像を学ぶ							
6	作業分析②			分析演習を行う①							
7	作業分析③			分析演習を行う②							
8	分野別作業分析①			身体機能分野における作業分析と適用							
9	分野別作業分析②			身体機能分野における作業分析と適用							
10	分野別作業分析③			認知機能分野における作業分析と適用							
11	分野別作業分析④			認知機能分野における作業分析と適用							
12	分野別作業分析⑤			心理社会的分野における作業分析と適用							
13	分野別作業分析⑥			心理社会的分野における作業分析と適用							
14	処理論と作業①			人間作業モデル・COPM・MTDLPについて学ぶ							
15	処理論と作業②			人間作業モデル・COPM・MTDLPについて演習する							
16	定期試験										
準備学習(予習復習)の 具体的な内容		授業の前に、該当内容の範囲を予習しておくこと。確認テストを行うので復習も欠かさないこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (30 %) ☐ 発表 (%) ☒ その他 提出期限(送れた場合は減点) ()									
教 科 書		ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版 三輪書店									
参 考 書		作業-その治療的応用 改訂第2版 協同医書出版社 その他、適宜資料配布									
授業の留意点・備考		成績評価の内容を確認すること。各授業ごとの課題遂行や提出期限を守ること(提出期限も評価の対象とする)。									

科目名	基礎作業学演習Ⅰ						担当教員	那須 美紀			
学科	作業療法学	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	精神科病院にて勤務し、精神科作業療法に従事した経験を活かし、各activityの捉え方や実際の方法を講義・演習する										
授業概要	作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 基礎作業学の実技演習としての位置づけである。										
到達目標	①作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ②治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ③治療手段としての作業活動を実践することができる。										
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション 革細工①			講義全体のオリエンテーションを行う 革細工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果）について学ぶ							
2	革細工②			革細工で使用する道具について、作成する作品の説明、カービングにてコースター作りを行う							
3	革細工③			コースター作りを行う							
4	革細工④			革の着色について（講義・演習）、小銭入れ説明（かがりも含む）							
5	革細工⑤			小銭入れ作製							
6	革細工⑥			小銭入れ作製（着色・かがり・ホックつけも含む）							
7	小テスト 塗り絵①			革細工小テスト 塗り絵の特徴、臨床での活用方法について学ぶ							
8	塗り絵②			認知症高齢者の作業活動で利用できる塗り絵の下絵製作							
9	塗り絵③ フィンガーペインティングについて			各自の下絵についての発表 フィンガーペインティングについて学ぶ							
10	フィンガーペインティングについて			グループに分かれ、フィンガーペインティング体験							
11	小テスト タイルモザイク①			塗り絵・フィンガーペインティング小テスト タイルモザイクについて（素材の特徴・作業の特徴・道具）							
12	タイルモザイク②			ペアをつくり作品作り（デザイン）							
13	タイルモザイク③			卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
14	タイルモザイク④			卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
15	タイルモザイク⑤			作品発表・小テスト							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☒ レポート（ 50 %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書		作業—その治療的応用 第2版（共同医書出版社）									
参考書		・作業療法学 作業学 改訂第2版（メジカルビュー） ・ひとと作業・作業活動 第2版（三輪書店） ・資料を随時配布									
授業の留意点・備考		・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。									

科目名		基礎作業学演習Ⅰ					担当教員		那須 美紀		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院にて勤務し、精神科作業療法に従事した経験を活かし、各activityの捉え方や実際の方法を講義・演習する									
授 業 概 要		作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 基礎作業学の実技演習としての位置づけである。									
到 達 目 標		①作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ②治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ③治療手段としての作業活動を実践することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 革細工①			講義全体のオリエンテーションを行う 革細工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果）について学ぶ							
2	革細工②			革細工で使用する道具について、作成する作品の説明、カービングにてコースター作りを行う							
3	革細工③			コースター作りを行う							
4	革細工④			革の着色について（講義・演習）、小銭入れ説明（かがりも含む）							
5	革細工⑤			小銭入れ作製							
6	革細工⑥			小銭入れ作製（着色・かがり・ホックつけも含む）							
7	小テスト 塗り絵①			革細工小テスト 塗り絵の特徴、臨床での活用方法について学ぶ							
8	塗り絵②			認知症高齢者の作業活動で利用できる塗り絵の下絵製作							
9	塗り絵③ フィンガーペインティングについて			各自の下絵についての発表 フィンガーペインティングについて学ぶ							
10	フィンガーペインティングについて			グループに分かれ、フィンガーペインティング体験							
11	小テスト タイルモザイク①			塗り絵・フィンガーペインティング小テスト タイルモザイクについて（素材の特徴・作業の特徴・道具）							
12	タイルモザイク②			ペアをつくり作品作り（デザイン）							
13	タイルモザイク③			卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
14	タイルモザイク④			卵の殻を使った作品作り（着色も含む）							
15	タイルモザイク⑤			作品発表・小テスト							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☒ レポート（ 50 %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		作業—その治療的応用 第2版（共同医書出版社）									
参 考 書		・作業療法学 作業学 改訂第2版（メジカルビュー） ・ひとと作業・作業活動 第2版（三輪書店） ・資料を随時配布									
授業の留意点・備考		・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。									

科目名	基礎作業学演習Ⅱ						担当教員	那須 美紀			
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	精神科病院にて勤務し、精神科作業療法に従事した経験を活かし、各activityの捉え方や実際の方法を講義・演習する										
授業概要	作業が有する治療的効果について、作業活動の演習、作業分析等の技法を用いて実践的に学習する。 基礎作業学の実技演習としての位置づけである。										
到達目標	①作業分析を実践し、治療的要素をとらえることができる。 ②治療目的に応じ作業活動を適用することができる。 ③治療手段としての作業活動を実践することができる。										
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション 紙細工①			講義全体のオリエンテーションを行う 紙細工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果）について学ぶ							
2	紙細工②			作品作りについて説明							
3	紙細工③			作品作り（ティッシュペーパーカバー作り）を行う							
4	紙細工④			作品作り（籠づくり）を行う（グッドライフにて実施予定）							
5	紙細工⑤			作品作り（籠づくり）を行う（グッドライフにて実施予定）							
6	小テスト 陶芸①			紙細工小テスト 陶芸について（素材の特徴、社会的意味、治療効果等）について学ぶ							
7	陶芸②			作品作り（練習）を行う							
8	陶芸③			作品づくりを行う							
9	陶芸④			作品の仕上げ、素焼きのための窯入れを行う							
10	陶芸⑤			施釉について、本焼き、素焼きについて学ぶ。施釉を行う。							
11	小テスト 木工①			陶芸の小テスト 木工について（素材の特徴、社会的意味、治療効果、道具）について学ぶ							
12	木工②			ペアをつくり作品作り							
13	木工③			ペアをつくり作品作り							
14	木工④			ペアをつくり作品作り							
15	木工⑤			塗料について（講義）、着色							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☒ 小テスト（ 30 % ） ☒ レポート（ 50 % ） ☒ 課題（ 20 % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ ）									
教科書		作業—その治療的応用 第2版（共同医書出版社）									
参考書		・作業療法学 作業学 改訂第2版（メジカルビュー） ・ひとと作業・作業活動 第2版（三輪書店） ・資料を随時配布									
授業の留意点・備考		・道具、材料等の物品の管理は責任を持って行うこと。 ・演習の際は、汚れてもかまわない服装で臨むこと。									

科目名		症例研究法演習Ⅰ					担当教員		山田 勝久		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科領域の作業療法実務に携わった経験をいかし、精神障害者に対する作業療法実践において求められる基本的態度や知識について講義・演習を行う。									
授業概要		作業療法分野のケーススタディの意義を理解し、ケーススタディ指針に沿った症例レポートの記述について学ぶ。									
到達目標		1. 精神科領域の作業療法評価の過程を理解することができる 2. 作業療法評価（面接・観察・情報収集）で得た情報を整理・統合し、OTプログラムを立案することができる 2. ケーススタディ指針に基づいた、論理的な表現で症例レポートを作成することができる									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	授業概要のオリエンテーション			授業の流れについて理解する							
2	評価の流れについて			精神科領域における作業療法評価の流れを理解する							
3	観察法とその記録			作業分析の視点をを用いて観察評価のポイントを理解する							
4	観察法とその記録			仮想ケースのロールプレイを通して、疾患別の観察評価を演習する							
5	観察法とその記録			仮想ケースのロールプレイを通して、疾患別の観察評価を演習する							
6	観察法とその記録			観察評価で得た情報をSOAPの方式に従っての記録・アセスメントする							
7	情報収集・面接法とその記録			情報収集・面接評価のポイントを理解する							
8	情報収集・面接法とその記録			面接の技法について理解する							
9	情報収集・面接法とその記録			仮想ケースの面接場面をロールプレイし、面接で得た内容を記録・アセスメントする							
10	評価のまとめと問題点の抽出（ケーススタディ）			記録に記された情報を統合し、問題点の焦点化を行う							
11	評価のまとめと問題点の抽出（ケーススタディ）			記録に記された情報を統合し、問題点の焦点化を行う							
12	目標設定とプログラム作成（ケーススタディ）			問題点に対応した目標設定の仕方を学ぶ							
13	目標設定とプログラム作成（ケーススタディ）			設定した目標に対する作業療法プログラムの立案について学ぶ							
14	目標設定とプログラム作成（ケーススタディ）			治療構造を意識した作業療法プログラムの狙いを考察する							
15	授業の総括			授業を総括し、ケーススタディの意義を理解する							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。									
成績評価		☒ 定期試験（20％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（80％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		標準作業療法学 専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディ 第2版									
参考書		※精神医学Ⅱ 精神障害評価法Ⅱ 作業療法治療学総論・各論で使用したテキストを使用します									
授業の留意点・備考		ロールプレイなど演習系の授業が多いため、グループで協力し積極的に参加すること。仮想ケースのレポート作成を課すため、提出期限の遅延がないよう努めること									

科目名		症例研究法演習Ⅱ					担当教員		竹本 舞			
学科	作業療法学		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験			身体障害領域での経験を活かして、身体障害領域の症例における臨床思考過程について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要			臨床実習において求められるケースノートとケースレポートの視点および作成方法について学ぶ。									
到 達 目 標			・ケースノートを作成することができる。・ICFの分類に従い、対応すべき生活機能と障害を抽出し治療目標の設定およびOTアプローチの立案ができる。・自分で立案した治療目標やOTアプローチの根拠について考察でき、それを文章化できる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	仮想ケースの提示および進行説明 ケースノートの作成方法				ケースノート(自由書式, SOAP形式)の作成方法を学習する。							
2	ケースノートの作成				仮想ケースのケースノートを作成する。							
3	ケースレポートの構成、アセスメントの書き方、活動の書き方				ケースレポートの構成、アセスメントの書き方、活動の書き方を学習する。							
4	仮想ケースの「はじめに」「症例紹介」作成				仮想ケースの「はじめに」「症例紹介」を作成する。							
5	仮想ケースの「作業療法評価」作成				仮想ケースの「作業療法評価」を作成する。							
6	仮想ケースの「はじめに」、「症例紹介」、「作業療法評価」添削				仮想ケースの「はじめに」、「症例紹介」、「作業療法評価」添削							
7	参加・環境因子の書き方、ICF分類、問題点の焦点化				参加・環境因子の書き方、ICF分類、問題点の焦点化について学習する。							
8	仮想ケースの「対応すべき生活機能と障害」作成				仮想ケースの「対応すべき生活機能と障害」を作成する。							
9	目標設定の考え方、治療プログラム立案時の考慮点				目標設定の考え方、治療プログラム立案時の考慮点について学習する。							
10	仮想ケースの「作業療法計画の立案」作成				仮想ケースの「作業療法計画の立案」を作成する。							
11	考察の書き方				考察の書き方を学習する。							
12	仮想ケースの「考察」作成				仮想ケースの「考察」を作成する。							
13	仮想ケースの「考察」添削				仮想ケースの「考察」の添削後、修正を行う。							
14	報告会用レジュメ作成法				報告会用レジュメの作成方法を学習する。							
15	治療プログラム意見交換会				各自立案した治療プログラムの意見交換会を行う。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容			評価のアセスメントにおいて必要な解剖・生理の知識の復習を行っておく。									
成 績 評 価			☒ 定期試験 (20 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (80 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書			・標準作業療法学 専門分野 臨床実習とケーススタディー 第2版:医学書院 ・ICFの理解と活用:萌文社									
参 考 書			・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版:医学書院 ・脳卒中最前線 第4版:医歯薬出版株式会社									
授業の留意点・備考			仮想ケースを使い段階的に進めて行くので、その都度の提出期限を厳守する。									

科目名	症例研究					担当教員	作業療法学科教員				
学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野において教授する。									
授 業 概 要		長期実習において経験した症例の作業療法経過を振り返り症例研究レポートを作成することで、そこから得られた経験や成果を考察する。									
到 達 目 標		長期実習において経験した症例の作業療法経過をまとめ、症例研究レポートを作成することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	症例研究とは、症例研究テーマの立案			症例研究の概要を学ぶ。研究する症例を立案する。							
2	症例研究の倫理			個人情報の扱い方や研究倫理について学習する。							
3	文献検索①			参考・引用文献の検索方法を学ぶ。							
4	文献検索②			参考・引用文献の検索方法を学び、正しく記載できる。							
5	文献検索③			参考・引用文献の検索方法を学び、正しく記載できる。							
6	文献検索④			参考・引用文献の検索方法を学び、正しく記載できる。							
7	症例研究レポートの作成①			レポートを作成する。							
8	症例研究レポートの作成②			レポートを作成する。							
9	症例研究レポートの作成③			レポートを作成する。							
10	症例研究レポートの作成④			レポートを作成する。							
11	症例研究レポートの作成⑤			レポートを作成する。							
12	症例研究レポートの作成⑥			レポートを作成する。							
13	症例研究レポートの作成⑦			レポートを作成する。							
14	症例研究レポートの作成⑧			レポートを作成する。							
15	症例研究レポートの作成⑨			レポートを作成する。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		特になし。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（ 研究レポートの内容・提出状況などにより総合的に評価する。 ）									
教 科 書		特に指定しない。									
参 考 書		別途、その都度指示する。									
授業の留意点・備考		・研究テーマについてあらかじめ考えておくこと。 ・担当教員の指示に従い、課題の期限等を遵守すること。									

科目名		作業療法評価法Ⅰ					担当教員		野仲 泰良		
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		作業療法士業務に携わった経験をいかし、作業療法評価に関する基本的知識について講義・実技指導を行う。									
授 業 概 要		作業療法士の臨床実践に必要な評価について学ぶ。評価項目の種類を知り、それぞれの目的と使用方法について実技を交えて学習する。									
到 達 目 標		1. 作業療法における評価の意義や目的を理解し、説明できる。 2. 身体障害領域の基本的な評価方法を理解し、技術を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション、作業療法評価			身体障害領域の作業療法評価の意義と目的を学ぶ。							
2	作業療法評価			作業遂行評価による技能分析を学ぶ。							
3	作業療法評価			個別的な目的や価値における作業二ードの評価を学習し、演習する。							
4	面接			作業療法における面接の構造、種類を学ぶ。							
5	面接			面接時の態度、技法、位置関係を学習し演習する。							
6	観察			作業療法における観察の構造、種類を学ぶ。							
7	観察			観察評価を実施し観察の視点を学習し、演習する。							
8	意識レベルの評価			意識レベルの評価を学習し、演習する。							
9	バイタルサインの評価			バイタルサインの方法を学習し、演習する。							
10	形態計測			四肢長および周径の意義、目的、方法を学習する。							
11	形態計測			形態計測（四肢長）を学習し、演習する。							
12	形態計測			形態計測（周径）を学習し、演習する。							
13	関節可動域測定			関節可動域測定の意義と目的を学ぶ。							
14	関節可動域測定			関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。							
15	関節可動域測定			関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	関節可動域測定	関節可動域測定（上肢・手指）の測定法を学習し、演習する。
17	関節可動域測定	関節可動域測定（体幹）の測定法を学習し、演習する。
18	関節可動域測定	関節可動域測定（体幹）の測定法を学習し、演習する。
19	関節可動域測定	関節可動域測定（下肢）の測定法を学習し、演習する。
20	関節可動域測定	関節可動域測定（下肢）の測定法を学習し、演習する。
21	徒手筋力検査	徒手筋力検査の意義と目的を学ぶ。
22	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
23	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
24	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
25	徒手筋力検査	徒手筋力検査（肩甲帯・上肢）の測定法を学習し、演習する。
26	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
27	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
28	徒手筋力検査	徒手筋力検査（下肢）の測定法を学習し、演習する。
29	徒手筋力検査	徒手筋力検査（体幹・頸部）の測定法を学習し、演習する。
30	徒手筋力検査	徒手筋力検査（体幹・頸部）の測定法を学習し、演習する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		事前学習プリントを各単元で配布する。 事前学習を怠ると授業に遅れをとることになるため、積極的に行うようにする。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 40 %） ☒ 実技試験（ 50 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		①標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版：医学書院 ②ROM測定 PT・OTのための測定評価DVDシリーズ1：三輪書店 ③ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版：南山堂 ④新・徒手筋力検査法 第9版：協同医書出版社 ⑤OT評価ポケット手帳 ヒューマンプレス
参 考 書		・講義毎に配布します。
授業の留意点・備考		・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。（結髪、爪等） ・事前学習をした上で授業に臨んでもらうため各コマの「授業内容」を確認すること。 ・各評価事に実技小テストを実施する。（日程は都度伝える）

科目名		身体障害評価法演習Ⅰ						担当教員		野仲 泰良	
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		作業療法士業務に携わった経験をいかし、作業療法評価に関する基本的知識について講義・実技指導を行う。									
授 業 概 要		2年次の検査・測定実習における到達目標を達成するための準備となる。 作業療法における評価の意味合い・作業療法プロセス・臨床推論を含めた評価のまとめと分析を学習する。実技演習では代表的な疾患を通して評価の過程、介入方法を模擬的に学習する。									
到 達 目 標		・作業療法評価を理解し、実習につなげる知識と技術を身につける。 ・検査結果をもとにアセスメントにつなげることができる。 ・模擬的な情報から選択された評価項目について意味付けを行い、評価計画を示すことができる。 ・模擬的な情報から評価のまとめと分析を行い、問題点、利点を抽出することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			到達目標の共有、作業療法評価の概要							
2	バイタルチェック			血圧・脈拍の測定法を学び、演習する。							
3	形態計測			四肢長の測定法を学び、演習する。							
4	形態計測			周径の測定法を学び、演習する。							
5	関節可動域測定法（肩甲骨・上肢）			関節可動域（肩甲骨・上肢）の測定法を学び、演習する。							
6	関節可動域測定法（上肢）			関節可動域（上肢）の測定法を学び、演習する。							
7	関節可動域測定法（体幹）			関節可動域（体幹）の測定法を学び、演習する。							
8	関節可動域測定法（体幹）			関節可動域（体幹）の測定法を学び、演習する。							
9	関節可動域測定法（下肢）			関節可動域（下肢）の測定法を学び、演習する。							
10	関節可動域測定法（下肢）			関節可動域（下肢）の測定法を学び、演習する。							
11	形態測定・関節可動域測定演習			グループで演習し共有する。							
12	形態測定・関節可動域測定演習			グループで演習し共有する。							
13	形態測定・関節可動域測定法実技小テスト			形態測定・関節可動域測定の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。							
14	形態測定・関節可動域測定法実技小テスト			形態測定・関節可動域測定の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。							
15	形態測定、関節可動域測定まとめ			形態測定・関節可動域測定の結果をもとにアセスメントする。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	脳神経検査法（嗅・視・動眼・滑車・外転）	脳神経の検査法を学び、演習する。
17	脳神経検査法（三叉・顔面・内耳）	脳神経の検査法を学び、演習する。
18	脳神経検査法（舌咽・迷走・副・舌下）	脳神経の検査法を学び、演習する。
19	協調性検査法	協調性の検査法を学び、演習する。
20	筋緊張検査法	筋緊張の検査法を学び、演習する。
21	上肢機能検査法	上肢機能の検査法を学び、演習する。
22	協調性検査法・筋緊張検査法・上肢機能検査法まとめ	各検査の結果をもとにアセスメントする。
23	腱反射検査法	腱反射のメカニズムを復習する。また腱反射の検査法を学び、演習する。
24	腱反射検査法	腱反射の検査方法を学び、演習する。
25	病的反射検査法	病的反射の検査法を学び、演習する。
26	病的反射検査法	病的反射の検査法を学び、演習する。
27	腱反射・病的反射検査法演習	グループで演習し共有する。
28	腱反射・病的反射検査法演習	グループで演習し共有する。
29	腱反射・病的反射実技小テスト	腱反射・病的反射の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
30	腱反射・病的反射実技小テスト	腱反射・病的反射の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		実技の予習・復習を徹底すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 30 %） ☒ 実技試験（ 60 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		・標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版（医学書院） ・ROM測定 PT・OTのための測定評価 DVDシリーズ1 ・ベッドサイドの神経の診かた
参 考 書		都度配布する
授業の留意点・備考		・授業中はふさわしい格好で臨むこと。（髪は結び、靴下は白で望む、爪は切る） ・授業前に指定範囲の予習をすること。

科目名		身体障害評価法演習Ⅱ						担当教員		野仲 泰良		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習	
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		作業療法士業務に携わった経験をいかし、作業療法評価に関する基本的知識について講義・実技指導を行う。										
授 業 概 要		2年次の検査・測定実習における到達目標を達成するための準備となる。 作業療法における評価の意味合い・作業療法プロセス・臨床推論を含めた評価のまとめと分析を学習する。実技演習では代表的な疾患を通して評価の過程、介入方法を模擬的に学習する。										
到 達 目 標		・作業療法評価を理解し、実習につなげる知識と技術を身につける。 ・検査結果をもとにアセスメントにつなげることができる。 ・模擬的な情報から選択された評価項目について意味付けを行い、評価計画を示すことができる。 ・模擬的な情報から評価のまとめと分析を行い、問題点、利点を抽出することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ			授 業 内 容								
1	オリエンテーション			到達目標を共有する。								
2	徒手筋力検査法の概要			徒手筋力測定の概要を学ぶ。								
3	徒手筋力検査法（肩甲帯・肩）			徒手筋力検査法（肩甲帯・肩）の検査法を学び、演習する。								
4	徒手筋力検査法（肩甲帯・肩）			徒手筋力検査法（肩甲帯・肩）の検査法を学び、演習する。								
5	徒手筋力検査法（肘・前腕・手指）			徒手筋力検査法（肘・前腕・手指）の検査法を学び、演習する。								
6	徒手筋力検査法（肘・前腕・手指）			徒手筋力検査法（肘・前腕・手指）の検査法を学び、演習する。								
7	徒手筋力検査法（母指、股）			徒手筋力検査法（母指、股）の検査法を学び、演習する。								
8	徒手筋力検査法（母指、股）			徒手筋力検査法（母指、股）の検査法を学び、演習する。								
9	徒手筋力検査法（股・膝・足）			徒手筋力検査法（股・膝・足）の検査法を学び、演習する。								
10	徒手筋力検査法（股・膝・足）			徒手筋力検査法（股・膝・足）の検査法を学び、演習する。								
11	徒手筋力検査法演習			グループで演習し共有する。								
12	徒手筋力検査法演習			グループで演習し共有する。								
13	徒手筋力検査実技小テスト			徒手筋力検査法の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。								
14	徒手筋力検査実技小テスト			徒手筋力検査法の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。								
15	痛みの評価法			痛みの評価法を学び、演習する。								

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	バランス検査	バランス検査の検査法を学び、演習する。
17	感覚検査法	感覚検査法の検査法を学び、演習する。
18	感覚検査法	感覚検査法の検査法を学び、演習する。
19	感覚検査法演習	グループで演習し共有する。
20	感覚検査法演習	グループで演習し共有する。
21	感覚検査法実技テスト	感覚検査法の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
22	感覚検査法実技テスト	感覚検査法の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
23	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の検査法を学び、演習する。
24	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の検査法を学び、演習する。
25	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の検査法を学び、演習する。
26	片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の検査法を学び、演習する。
27	片麻痺機能検査演習	グループで演習し共有する。
28	片麻痺機能検査演習	グループで演習し共有する。
29	片麻痺機能検査実技小テスト	片麻痺機能検査の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
30	片麻痺機能検査実技小テスト	腱反射・病的反射の実技小テストを模擬患者を用いて実施する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		実技の予習・復習を徹底すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 30 %） ☐ 実技試験（ 60 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		・標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版（医学書院） ・ROM測定 PT・OTのための測定評価 DVDシリーズ1 ・ベッドサイドの神経の診かた
参 考 書		都度配布する
授業の留意点・備考		・授業中はふさわしい格好で臨むこと。（髪は結び、靴下は白で望む、爪は切る） ・授業前に指定範囲の予習をすること。

科目名		精神障害評価法Ⅰ					担当教員		那須 美紀		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院にて勤務し、精神科作業療法に従事した経験を活かし、精神障害分野における基本的な評価について講義する									
授 業 概 要		精神障害を捉え、精神障害者を知るためのスキルを習得し、精神障害評価法Ⅱと併せ3年次の精神障害治療学（演習）の基盤とする									
到 達 目 標		①作業療法評価の意義と目的を述べる事が出来る ②精神機能作業療法評価の方法を説明する事が出来る ③気分障害の概要と評価のポイントを説明する事が出来る									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション・評価の概要			・オリエンテーションにて授業の流れを説明する ・評価の概要（意義と目的・手段、技術）について学習する							
2	観察について①			観察（概要、観察のバイアスについてとその対応）について学習する							
3	観察について②			観察（観察における関与について、全身状態の観察、生活活動の観察、作業観察法）について学習する							
4	面接について①			・面接（面接の種類、面接における準備、面接の技術、面接の態度）について学習する							
5	面接について②			面接の基本（受容・傾聴・共感）とそれに加え面接時の沈黙への対応について学習する							
6	面接について③			構成的作業面接・投影的作業面接とは何か各作業面接の特徴、注意点について学習する							
7	他部門からの情報収集、各種評価法について			他部門からの情報収集、生活技能評価法について、職業関連評価について学習する							
8	各種評価法について			精神症状評価、社会生活技能評価法、人格診断法、投影的診断法、そのほかの人格診断法について学習する							
9	集団評価について			集団評価（集団評価のキーワード・集団評価の目的・モゼイの集団関係技能評価）について学習する							
10	気分障害の評価について①			うつ病（概要・症状・発症要因）について学習する							
11	気分障害の評価について②			うつ病（経過、入院の適応、作業療法上ポイントとなること、患者の状態の理解、評価、評価の留意点）について学習する							
12	気分障害の評価について③			躁病相の経過や特徴を学習し、評価事例を通し一連の流れを理解する。							
13	ICFでの対象者の捉え方			・ICFでの対象者の捉え方（概要）・精神分野でのICFでの対象者の捉え方について学習し、事例を通し演習する							
14	精神機能評価法の実践			精神機能評価法の実践、精神機能評価法と精神疾患との関係性について学習する							
15	まとめ			これまでの授業の振り返り・ポイント提示を行い、理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業後の復習を十分に行うこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学（医学書院）									
参 考 書		精神疾患の理解と精神科作業療法学（第3版）精神障害と作業療法（第3版） その他教員が資料を配布									
授業の留意点・備考		本授業は、精神評価の基盤となる。									

科目名	精神障害評価法Ⅱ	担当教員	山田 勝久
-----	----------	------	-------

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	精神科領域の作業療法実務に携わった経験を活かし、精神科領域の作業療法実践で求められる態度や知識について講義を行う。										
授業概要	精神障害を捉え、精神障害者を知るための作業療法評価に関する知識とスキルを習得する。ここで学習した内容は、3年次の症例研究法演習Ⅰ、精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ・精神疾患系演習の基盤となる。さらに3年次の評価実習Ⅰ（精神障害系）において、ここで学習した内容がケーススタディーを通じて実践される。										
到達目標	1. 疾患別評価のポイント・項目を列挙することができる（情報収集、面接および観察、各種評価バッテリー） 2. 評価から得られた情報を記録し、アセスメントすることができる 3. 観察評価における視点を習得する										

授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	授業概要のオリエンテーション					授業の目標と流れを理解する					
2	精神障害評価法Ⅰの復習					精神科領域で用いられる評価について確認する					
3	統合失調症の評価					統合失調症の分類や発症モデルについて理解する					
4	統合失調症の評価					統合失調症の分類や発症モデルについて理解する					
5	統合失調症の評価					統合失調症の分類や発症モデルについて理解する					
6	統合失調症の評価					統合失調症の障害像について理解する					
7	統合失調症の評価					統合失調症の障害像について理解する					
8	統合失調症の評価					統合失調症の障害像について理解する					
9	統合失調症の評価					統合失調症の回復段階に応じた状態像と評価のポイントを理解する					
10	統合失調症の評価					統合失調症の回復段階に応じた状態像と評価のポイントを理解する					
11	統合失調症の評価					統合失調症の回復段階に応じた状態像と評価のポイントを理解する					
12	統合失調症の評価					統合失調症の回復段階に応じた状態像と評価のポイントを理解する					
13	神経症性障害の評価					神経症性障害の分類について理解する					
14	神経症性障害の評価					神経症性障害の分類について理解する					
15	神経症性障害の評価					神経症性障害の障害像と評価のポイントについて理解する					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	神経症性障害の評価	神経症性障害の障害像と評価のポイントについて理解する
17	人格障害の評価	人格障害の障害像と評価のポイントについて理解する
18	人格障害の評価	人格障害の障害像と評価のポイントについて理解する
19	人格障害の評価	人格障害の障害像と評価のポイントについて理解する
20	依存症症候群の評価	依存症症候群の障害像と評価のポイントについて理解する
21	依存症症候群の評価	依存症症候群の障害像と評価のポイントについて理解する
22	依存症症候群の評価	依存症症候群の障害像と評価のポイントについて理解する
23	認知症の評価	認知症の分類について理解する
24	認知症の評価	認知症の障害像と評価のポイントについて理解する
25	認知症の評価	認知症の障害像と評価のポイントについて理解する
26	てんかんの評価	てんかんの障害像と評価のポイントについて理解する
27	評価と記録	記録の意義について理解する
28	評価と記録	SOAPを用いた記録について理解する
29	観察評価の視点	作業分析を用いた観察評価の視点について理解する
30	観察評価の視点	作業分析を用いた観察評価の視点について理解する
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 （医学書院）
参 考 書		精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規
授業の留意点・備考		グループワーク等の参加型の授業では、積極的に意見を提示し討議に参加すること

科目名		発達障害評価法					担当教員		平田 未来子			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			小児療育医療センターへ勤務し、重症心身障害児・者、発達障害児の治療、療育、指導の経験を活かし、発達障害における評価について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要			発達の遅れや障害を持つ対象者の評価法について、基本的な考え方を理解するとともに、各種検査について目的、実施方法、解釈等について学習する。									
到 達 目 標			発達障害における支援制度と地域における発達支援方法を説明できる。発達障害作業療法における運動機能、上肢機能、視覚・視知覚認知口腔機能、発達全般を評価する検査について理解し説明することができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				発達障害の定義や小児リハビリテーションの歴史と変遷について学ぶ							
2	発達障害に関連する法規・制度				小児リハビリテーションと支援制度について学ぶ							
3	地域支援システム				地域における発達支援方法について学ぶ							
4	運動機能の評価①				小児の反射と発達について学ぶ							
5	運動機能の評価②				小児の反射と発達について学ぶ							
6	運動機能の評価③				小児の粗大運動の発達と評価について学ぶ							
7	運動機能の評価④				特定の疾患・障害の運動能力レベルを評価する検査について学ぶ							
8	上肢機能の評価①				上肢機能の発達と評価について学ぶ							
9	上肢機能の評価②				エアハート発達学的把持能力評価、その他検査について学ぶ							
10	視覚・視知覚認知の評価				視覚の発達、眼球運動の評価、日本版フロスティグ視知覚発達検査について学ぶ							
11	口腔機能の発達と評価①				口腔反射、摂食機能の発達と評価について学ぶ							
12	口腔機能の発達と評価②				食事動作の発達と評価について学ぶ							
13	発達全般を評価する検査①				新版K式発達検査2001、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法について学ぶ							
14	発達全般を評価する検査②				デンバー発達判定法（DENVERⅡ）、KIDS乳幼児発達スケールその他検査法について学ぶ							
15	まとめ				授業のまとめ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			教科書を読んでおく。 講義ノートを復習しておく。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版：医学書院									
参 考 書			イラストでわかる人間発達学：医歯薬出版 イラストでわかる発達障害の作業療法：医歯薬出版									
授業の留意点・備考			授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。 演習によっては動きやすい服装での受講をお願いする場合があります。									

科目名		発達障害評価法演習					担当教員		平田 未来子			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児療育医療センターへ勤務し、重症心身障害児・者、発達障害児の治療、療育、指導の経験を活かし、発達障害における評価について講義・演習を行うことができる。										
授 業 概 要		発達の遅れや障害を持つ対象者の評価について、基本的な考え方を理解するとともに、各種検査について目的、実施方法、解釈等について実技演習を行いながら学習する。										
到 達 目 標		発達障害作業療法における感覚統合機能、知能・認知機能行動、作業遂行・身辺処理、遊び、ADLの発達の評価、検査を理解し説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	感覚統合機能の評価①				感覚統合の考え方について学ぶ							
2	感覚統合機能の評価②				JPAN感覚処理・行為機能検査を学ぶ							
3	感覚統合機能の評価③				日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）を学ぶ							
4	感覚統合機能の評価④				日本版感覚プロファイル、日本感覚インベントリーを学ぶ							
5	感覚統合機能の評価⑤				症例を通してグループでディスカッションを行う							
6	知能・認知機能の評価①				知能・認知機能の代表的な理論と検査について学ぶ							
7	知能・認知機能の評価②				日本版WISC-IV知能検査を学ぶ							
8	知能・認知機能の評価③				日本版KABC-II、DN-CAS認知評価システムを学ぶ							
9	知能・認知機能の評価④				人物画、描画の発達、グッドイナフ人物画知能検査を学ぶ							
10	行動の評価				日本版Vineland-II適応行動尺度、S-M社会生活能力検査第3版を学ぶ							
11	作業遂行・身辺処理の評価①				乳幼児期の作業遂行・身辺処理について学ぶ							
12	作業遂行・身辺処理の評価②				こどものための機能的自立度評価法（WeeFIM）、PEDIについて学ぶ							
13	遊びとADLの発達と評価				乳幼児期の遊びとADLの発達と評価について学ぶ							
14	その他の評価				被虐待児への評価と対応、その他評価について学ぶ							
15	まとめ				授業のまとめを行う							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおく。 講義ノートを復習しておく。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 100 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）										
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版：医学書院										
参 考 書		イラストでわかる人間発達学：医歯薬出版 イラストでわかる発達障害の作業療法：医歯薬出版										
授業の留意点・備考		授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。 演習によっては動きやすい服装での受講をお願いする場合があります。										

科目名		老年期障害評価法					担当教員		那須 美紀		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院で老年期作業療法に携わった経験を活かし、老年期の捉え方や評価の視点、方法を講義する									
授 業 概 要		老年期障害に携わる作業療法士の行動プロセスを通して、評価の目的、手順、意義について学ぶ。									
到 達 目 標		①老年期障害における評価の特徴を説明することができる。 ②疾患もしくは障害度の違いに応じた評価方法を選択できる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 老年期作業療法の目的と基本的枠組み			全体のオリエンテーション 老年期とは、目的、流れについて学ぶ							
2	老年期作業療法の対象			高齢者の状態像の特徴（予防期、急性期、回復期、生活期、終末期）を学ぶ							
3	老化と加齢変化①			病的老化と生理的老化について、身体機能の加齢的变化を学ぶ							
4	老化と加齢変化②			流動性知能と結晶性知能、老年期の暮らしについて学ぶ							
5	老化と加齢変化③			老年期の不自由についてグループワークを行う							
6	老年期に多い疾患			老年期に多い疾患の特徴・対応方法を学ぶ							
7	評価と目標設定			老年期の評価の考え方や評価の目的、内容を学ぶ。							
8	手段と技法①			他部門からの情報収集、面接について学ぶ							
9	手段と技法②			観察について学ぶ							
10	検査測定①			日常生活活動評価、IADL評価、QOL評価、身体機能評価について学ぶ							
11	検査測定②			精神・心理機能評価、行動評価、興味、認知機能評価について学ぶ							
12	検査測定③			知的機能評価、介護負担、認知症の介護予防、介護保険、介護度について学ぶ							
13	評価のまとめと課題の抽出			ICFでのまとめ、評価を整理する再の考えの流れ、目標設定について学ぶ							
14	病期に応じた治療・援助内容の違い			急性期・回復期・維持期に応じた治療、援助内容の違いを学ぶ							
15	まとめ			全体のまとめを行う							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		老年期の作業療法（三輪書店）									
参 考 書		作業療法評価学（第3版） 医学書院									
授業の留意点・備考											

科目名		老年期障害評価法演習					担当教員		那須 美紀			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験			精神科における老年期作業療法に従事していた経験を活かし、老年期の対象者の関わり方、評価の視点、方法を講義と演習を行う。									
授 業 概 要			老年期障害作業療法に用いられる評価法の実践法について、演習を中心として学ぶ。									
到 達 目 標			①対象者とのコミュニケーションを円滑に取る事が出来る ②面接と観察を行うことができる ③評価法の目的、方法、意義を説明できる ④正確な評価が実施できる									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	コミュニケーションにおける伝わり方の違いについて				言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを使っでの伝わり方の違いについて演習							
2	昭和の暮らしについて①				グループに分かれ、昭和の暮らし、住まい、歴史、遊び、食事、流行した音楽などを文献及びインターネットにて調べ学習							
3	昭和の暮らしについて②				グループに分かれ、昭和の暮らし、住まい、歴史、遊び、食事、流行した音楽などを文献及びインターネットにて調べ学習							
4	昭和の暮らしについて③				調べ学習の内容を各グループにて発表・解説							
5	面接について				・医療面接とは・解釈モデル・learnのアプローチ・質問形式について							
6	認知機能検査について①				HDS-Rの概要・ポイント、見本の提示後演習							
7	認知機能検査について②				MMSの概要・ポイント、見本の提示後演習							
8	認知機能検査について③				N式精神機能検査の概要・ポイント、見本の提示後演習							
9	認知機能検査について④				観察式評価（CDR、FAST、GBSスケール、NMスケール）についての概要・ポイント							
10	公共交通機関（バス）における車椅子体験				熊本都市バスに出向き車椅子体験を行う							
11	対象者の個人史を知ろう				認知症の対象者への対応の方法について、演習に向けてのオリエンテーション							
12	対象者の個人史を知ろう				グッドライフ熊本駅前の入所者の方を対象として個人史を聞き、まとめていく							
13	対象者の個人史を知ろう				グッドライフ熊本駅前の入所者の方を対象として個人史を聞き、まとめていく							
14	認知症の評価について				アルツハイマー型認知症の症状・評価の実施・まとめ・治療計画							
15	廃用症候群の評価について				・廃用症候群について・評価の種類と方法・評価の留意点							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容												
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書			高齢者のための知的機能検査の手引き（ワールドプランニング） 作業療法評価学（医学書院）									
参 考 書			講義内で資料を配布する									
授業の留意点・備考			評価の質は「対象者とのコミュニケーション」によって大きく左右されることを常に意識しながら臨む事。									

科目名		高次脳機能障害評価法演習						担当教員		大石 宝予	
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		成人の認知障害から高齢期障害に対する作業療法に携わった経験がある。医療機関や福祉施設において、古典的な高次脳機能障害から脳外傷に起因する認知機能障害の解剖生理に基づく脳の部位による障害像の分析と評価バッテリーを行った。									
授 業 概 要		若年者から高齢者に至るまで、高次脳機能障害ならびに認知症の障害像を捉え、障害ごとに導入される検査バッテリーの概要や作業療法の捉え方を学習する。後期の「高次脳機能障害治療学演習」と繋ぎの深い授業となります。									
到 達 目 標		対象疾患の臨床像や疾患に起因する生活機能、障害について説明できる。疾患の医学的治療と作業療法の治療・指導・援助内容を結び付け、認知機能障害の症状ごとの評価バッテリーの説明と選択ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 高次脳機能障害① 定義と大脳皮質の全体像			高次脳機能障害の定義や出現の起因を学ぶ。							
2	高次脳機能障害② 前頭葉・頭頂葉障害			前頭葉の働きと障害像、その評価について学ぶ。 頭頂葉の働きと障害像、その評価について学ぶ。							
3	高次脳機能障害③ 側頭葉・後頭葉障害			側頭葉の働きと障害像、その評価について学ぶ。 後頭葉の働きと障害像、その評価について学ぶ。							
4	高次脳機能障害④ 外傷性脳損傷			外傷性脳損傷の障害像、その評価について学ぶ。							
5	高次脳機能障害⑤ 高次脳機能障害まとめ			確認テストと解説。							
6	遂行機能障害			定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。							
7	遂行機能障害の評価演習①			FAB・BADS・WCSTを演習する。							
8	遂行機能障害の評価演習②			FAB・BADS・WCSTを演習、確認テスト。							
9	社会的行動障害			定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。							
10	社会的行動障害の評価演習①			CAS・ギャンブリング課題を演習する。							
11	社会的行動障害の評価演習②			CAS・ギャンブリング課題を演習、確認テスト。							
12	記憶障害			定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。							
13	記憶障害の評価演習①			三宅式記銘力検査・ベントン視覚記名検査・RBMTを演習する。							
14	記憶障害の評価演習③			三宅式記銘力検査・ベントン視覚記名検査・RBMTを演習、確認テスト。							
15	注意障害			定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	注意障害障害の評価演習①	TMT・かなひろいテスト・ストループ検査・CATの評価演習を行う
17	注意障害障害の評価演習②	TMT・かなひろいテスト・ストループ検査・CATの評価演習を行う
18	注意障害障害の評価演習③	TMT・かなひろいテスト・ストループ検査・CATの評価演習を行い、確認テスト。
19	失行	定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。
20	失行の評価	SPTAの評価演習を行う。
21	失認	定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。
22	失認の評価	VPTAの評価演習を行う。
23	半側空間無視	責任病巣とメカニズム、障害像を学ぶ。
24	半側空間無視の評価	BITの評価演習を行う。
25	失語	定義、分類、症状、責任病巣と障害像を学ぶ。
26	失語症の評価	SLTA・スクリーニング検査の評価演習を行う。
27	知能検査	コース立方体組み合わせテスト・レーヴン色彩マトリックス検査・WAIS-R知能検査を演習する。
28	まとめ	まとめと復習。OSCE提示。
29	学内OSCE①	症例提示し疾患に合う評価選択とその実施を評価する。
30	学内OSCE②	症例提示し疾患に合う評価選択とその実施を評価する。
31	定期試験	
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回、該当する部分の教科書を読んで授業に臨むこと。検査や評価の演習を行う。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ 40 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教 科 書		標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版 医学書院 高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版 医歯薬出版株式会社
参 考 書		病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版 医学情報科学研究所 適宜資料配布。
授業の留意点・備考		成績評価の内容を確認すること。 実習着で授業に臨むこと。学生同士で演習を行うので清潔感に配慮すること。 学内規定に則り身なりを整え臨むように。

科目名		日常生活活動評価法					担当教員		竹本 舞			
学科	作業療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、日常生活活動(手段的日常生活活動を含む)に対する基本的な作業療法について、講義・演習を行う。										
授 業 概 要		作業療法の実践において最も重視される日常生活活動（手段的日常生活活動を含む）について、その評価方法を講義および演習を通して学ぶ。										
到 達 目 標		・日常生活活動の概念を説明できる。 ・日常生活活動の評価が実施できる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	ADLの概念、領域、種類				ADLの概念、領域、種類、細目動作について学習する。							
2	基本動作				正常の寝返り・起上り・移乗・移動動作について演習する。							
3	食事動作				食事動作の特徴について理解し、食事の評価、食事動作に影響を与える要因を学習し、自助具の利用演習を行う。							
4	整容動作				整容の特徴について理解し、整容(手洗い、洗顔、歯磨き、整髪、髭剃り、化粧、爪切り)の評価を学習し、自助具の利用演習を行う。							
5	排泄動作				排泄の特徴について理解し、排泄の評価を学習し、自助具の利用演習及び福祉用具の利用演習を行う。							
6	更衣動作				更衣の特徴について理解し、片麻痺者の更衣方法を学習し、自助具の利用演習を行う。							
7	入浴動作				入浴の特徴について理解し、入浴の評価を学習し、自助具・福祉用具の利用演習を行う。							
8	IADL				IADLの特徴について理解し、IADLの種類を学習し、自助具の利用演習を行う。							
9	小テスト				小テスト(ADLの概念、ADLの評価・自助具)							
10	車椅子演習①				車椅子のパーツの名称・操作方法について学習し、車椅子の演習(坂道上り下り、砂利道)及び片麻痺者の自動車への乗降演習を行う。							
11	車椅子演習②				さまざまな車椅子の名称・種類を学習し、車椅子演習(エレベーターへの進入、段差上り、坂道下り)を行う。							
12	ADL評価の目的、ADLの位置づけ、ADLの種類、ADL評価法				ADL評価の目的、ADLの位置づけ、ADLの種類、ADL評価法について学習する。							
13	ADL評価演習(Barthel index)				ADL評価演習(仮想ケースを用い、のBarthel index採点を行う)							
14	ADL評価演習(FIM)				ADL評価演習(仮想ケースを用い、FIM採点を行う)							
15	復習				ADLの目的・種類、BIとFIMの違い、ADL評価について知識の整理を行う。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書の予習・復習を十分にいき、テキストを見なくても評価ができるようになるよう、評価基準を熟知すること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()										
教 科 書		作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL)：メジカルビュー社										
参 考 書		適宜資料を配布										
授業の留意点・備考		演習は実習着を着用する。										

科目名		動作分析学演習					担当教員		大石 宝予		
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療機関や福祉施設において対象者の動作分析をふまえ作業療法における治療をおこなった経験がある。									
授 業 概 要		基本動作を中心とした動作の分析を行う。まずは、健常者の動作パターンを基本とし、疾患によりどのように変化するのかを学ぶ。疾患別の動作分析を通して、動作遂行の阻害因子までも分析する。									
到 達 目 標		・動作分析の概要を説明することができる。 ・健常者および疾患別の運動パターンを説明することができる。 ・実際に動作を観察して動作の分析を行うことができ、さらに文章として表現できる									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	オリエンテーション 動作分析の目的				動作障害に関与する機能障害を学ぶ						
2	寝返り動作の分析①				基本パターンと疾患別の動作パターンを学ぶ						
3	寝返り動作の分析②				演習する						
4	起き上がり動作の分析①				基本パターンと疾患別の動作パターンを学ぶ						
5	起き上がり動作の分析②				演習する						
6	立ち上がり動作の分析①				基本パターンと疾患別の動作パターンを学ぶ						
7	立ち上がり動作の分析②				演習する						
8	移乗動作の分析①				基本パターンと疾患別の動作パターンを学ぶ						
9	移乗動作の分析②				演習する						
10	床上動作の分析①				基本パターンと疾患別の動作パターンを学ぶ						
11	床上動作の分析②				演習する						
12	動作分析演習				様々な場面を設定し動作分析を行う。GW①						
13	動作分析演習				様々な場面を設定し動作分析を行う。GW②						
14	動作分析演習				様々な場面を設定し動作分析の結果を発表する。GW①						
15	動作分析演習				様々な場面を設定し動作分析の結果を発表する。GW②						
16	定期試験										
準備学習(予習復習)の具体的な内容		各授業ごとの予習復習を行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (20 %) ☒ 発表 (20 %) ☐ その他 提出期限(送れた場合は減点) ()									
教 科 書		姿勢と動作 ADLその基礎から応用 第3版 メヂカルフレンド社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メヂカルフレンド社									
参 考 書		適宜資料配布									
授業の留意点・備考		成績評価の内容を確認すること。各授業ごとの課題遂行や提出期限を守ること(提出期限も評価の対象とする)。実習着で授業に臨むこと。学生同士で演習を行うので清潔感に配慮すること。学内規定に則り身なりを整え臨むように。									

学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	90	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	作業療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		身体障害領域の作業療法を実践する病院もしくは介護老人保健施設での実践経験を活かし、検査・測定の実習を行う									
授 業 概 要		身体障害領域の作業療法を実践する病院もしくは介護老人保健施設で行う、検査測定を中心とした2週間の実習である。									
到 達 目 標		①身体計測を実施できる ②関節可動域測定・徒手筋力検査が実施できる ③感覚検査が実施できる ④反射の検査を実施できる ⑤その他の検査を実施できる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	情報収集			対象者に関する情報収集を実施する							
2	情報収集			対象者に関する情報収集を実施する							
3	面接・観察			面接及び観察を実施する							
4	面接・観察			面接及び観察を実施する							
5	面接・観察			面接及び観察を実施する							
6	身体計測			身体計測を実施する							
7	身体計測			身体計測を実施する							
8	関節可動域検査			関節可動域検査を実施する							
9	関節可動域検査			関節可動域検査を実施する							
10	関節可動域検査			関節可動域検査を実施する							
11	関節可動域検査			関節可動域検査を実施する							
12	徒手筋力検査			徒手筋力検査を実施する							
13	徒手筋力検査			徒手筋力検査を実施する							
14	徒手筋力検査			徒手筋力検査を実施する							
15	徒手筋力検査			徒手筋力検査を実施する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	感覚検査	感覚検査を実施する
17	感覚検査	感覚検査を実施する
18	反射検査	反射検査を実施する
19	反射検査	反射検査を実施する
20	ADL検査	ADL検査を実施する
21	ADL検査	ADL検査を実施する
22	ADL検査	ADL検査を実施する
23	ADL検査	ADL検査を実施する
24	その他の検査	その他の検査を実施する
25	その他の検査	その他の検査を実施する
26	その他の検査	その他の検査を実施する
27	その他の検査	その他の検査を実施する
28	検査測定の結果のまとめ・分析	検査測定の結果のまとめ・分析を行う
29	検査測定の結果のまとめ・分析	検査測定の結果のまとめ・分析を行う
30	検査測定の結果のまとめ・分析	検査測定の結果のまとめ・分析を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		学内で各検査の練習を十分に行うこと
成 績 評 価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者からの評価及び実習終了後の発表の内容や提出物）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野「作業療法評価学」 ベッドサイドの神経の診かた 新徒手筋力検査法 絵でみる脳と神経・ROM測定PT・OTのための測定評価
参 考 書		新版姿勢と動作 ADLその基礎から応用
授業の留意点・備考		臨床実習指導者の指導をよく聞くこと 疑問点は臨床実習指導者に確認すること 課題の提出期限を守ること

科目名		身体障害治療学					担当教員		竹本 舞		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、身体機能作業療法の治療原理および内部疾患の作業療法について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		身体機能作業療法の治療原理および内部疾患の作業療法について学習する。									
到 達 目 標		身体機能作業療法の治療原理について説明および実施ができる。 内部障害の作業療法について説明ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	身体機能作業療法学の基礎			身体機能作業療法の目的、方法、対象、枠組み、実践、リスク管理について学ぶ。							
2	対象者とセラピストのためのボディメカニクス運動学習			物理学的基礎知識、身体運動の知識、動作介助の具体例、対象者の運動再学習を援助するための運動学習について学ぶ。							
3	関節可動域訓練①			関節可動域制限の分類と機序、評価・治療のための基礎知識を学習する。							
4	関節可動域訓練②			凹凸の法則に従った他動運動による関節可動域訓練を実施する。							
5	関節可動域訓練③			肩甲骨のモビライゼーション、マッサージ、ストレッチを学習し、演習する。							
6	関節可動域訓練④			肩・肘・手・手指・股・膝関節の可動域訓練を学習し、演習する。							
7	筋力訓練①			筋の収縮様式、筋力訓練の原則、筋力・筋持久力増強の機序を学習する。							
8	筋力訓練②			筋力・筋持久力訓練の治療手技を学習し、演習する。							
9	筋緊張異常とその治療			筋緊張の評価、治療手技を学習し、演習する。							
10	不随意運動とその治療			不随意運動の分類、評価、治療手技を学習し、演習する。							
11	協調運動障害とその治療			協調運動障害の評価、治療手技を学習し、演習する。							
12	感覚・知覚再教育①			感覚伝導路について学習する。							
13	感覚・知覚再教育②			知覚再学習のプログラムの流れ、回復過程に沿った治療を学習し、演習する。							
14	神経筋促通法①			錐体路について学習する。							
15	神経筋促通法②			神経筋促通法の治療手技を学習し、演習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	物理療法の基礎	物理療法の基礎を学習する。
17	小テスト①	身体機能作業療法の治療原理の小テストを行う。
18	アクティビティを使った治療①	各道具の特徴についてグループで調べ学習をする。
19	アクティビティを使った治療②	症例を設定し各道具を用いた訓練をグループで考える。
20	アクティビティを使った治療③	道具使用し、グループ発表をする。
21	心疾患の作業療法	心臓の構造と働きについて学習する。
22	心疾患の症状、評価、介入方法	心疾患の床状、評価、治療的介入、援助、指導について演習する。
23	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器の解剖と生理について学習する。
24	呼吸器疾患の症状、評価、介入方法	呼吸器疾患の床状、評価、治療的介入、援助、指導について演習する。
25	糖尿病の作業療法	糖尿病の病態及び分類、障害像について学習する。
26	糖尿病の症状、評価、介入方法	糖尿病の症状、評価、治療的介入、援助、指導について演習する。
27	悪性腫瘍切除後の作業療法 ターミナルケア	悪性腫瘍の種類とその症状、医学的治療、ターミナルケアについて学習する。
28	サルコペニア、泌尿器疾患の作業療法	サルコペニア、泌尿器疾患の症状、評価、介入方法を学習する。
29	小テスト②	内部疾患の症状、評価、治療について小テストを行う。
30	まとめ	身体機能作業療法の治療原理および内部疾患の症状、評価、治療について知識の整理を行う。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		適宜配布する資料と教科書を読みその都度復習すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 40 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版：医学書院
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		演習は実習着で行う。

科目名		脳血管疾患系演習					担当教員		野仲 泰良		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期から回復期、生活期の脳血管障害患者に携わってきた経験を活かして、脳血管疾患に対するリスク管理の重要性をはじめ、総合的評価から社会復帰に関わった介入経験について、講義・演習を行う。									
授 業 概 要		・脳解剖（神経）を復習し脳血管疾患の評価および作業療法アプローチを修得する。 ・脳血管疾患に関する作業療法評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。									
到 達 目 標		・主たる疾患の臨床像について説明できる。脳画像の診かたを理解し予測・検証することができる ・疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害の態様について説明できる。 ・問題点と利点の抽出の仕方を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			到達目標・学習目標等、授業の目的を共通認識する。							
2	脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーション①			脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについて、文献検索し、グループ調べ学習する。							
3	脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーション②			脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについてポスター形式で発表する。（1人ずつ）							
4	脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーション③			脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについてポスター形式で発表する。（1人ずつ）							
5	脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーション④			脳血管障害及び外傷性脳損傷の分類とリハビリテーションについて学習する。							
6	各期におけるリハビリテーション			脳血管疾患の各期におけるリハビリテーションの実際を学習する。							
7	脳画像評価①			CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する。							
8	脳画像評価②			CT, MRIの種類、脳溝の同定、画像診断を学習し演習する。							
9	作業療法評価			脳血管障害の対象者に必要となる作業療法評価を学習する。							
10	作業療法目標			脳血管障害の対象者の状況に応じた作業療法目標の考え方を学習する。							
11	リスク管理			リスク管理について学習し、演習する。							
12	ポジショニング			ポジショニングについて学習し、演習する。							
13	障害受容過程			脳血管障害の対象者が陥りやすい障害受容過程を学習する							
14	急性期リハ介入方法			急性期リハ介入方法を学習し、ベッドを用いて演習する。							
15	起居動作訓練、座位訓練			起居動作、座位訓練の介入方法を学習し、演習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	上肢機能に対する介入方法①	BRSⅠ～Ⅲに対する基本的な介入方法を学習し、演習する。
17	上肢機能に対する介入方法②	BRSⅣ～Ⅵに対する基本的な介入方法を学習し、演習する。
18	基本動作訓練	正常動作の復習と、片麻痺患者に対する介助方法と訓練検討を通し学習する。
19	ブッシャー症候群に対する介入方法	ブッシャー症候群の特徴と介入方法を学習し、患者役を用いて演習する。
20	感覚障害に対する介入方法①	軽度～中等度感覚鈍麻のある方に対する、治療の考え方を学習し、演習する。
21	感覚障害に対する介入方法②	重度感覚のある方に対する治療の考え方とリスク管理について学習し、演習する。
22	食事動作の介入方法	片麻痺患者の環境調整、自助具の検討、上肢操作訓練を学習し、演習する。
23	整容動作の介入方法	片麻痺の対象者および、意識障害のある対象者を想定した整容動作の介入方法を学習し、演習する。
24	更衣動作の介入方法	片麻痺患者の更衣指導、半側空間無視・遂行機能障害に対する更衣訓練を学習し、演習する。
25	トイレ動作の介入方法	片麻痺患者のトイレ動作指導、環境調整、機能に応じた訓練方法を学習し、演習する。
26	入浴動作の介入方法	環境調整、福祉用具の検討、サービスの利用を学習する。
27	環境調整①	シーティングの基礎と、食事場面でのシーティング調整を学習し、一部演習する。
28	事例検討①	事例を設定し、作業療法評価から治療プログラム立案までを演習を通して学ぶ。
29	事例検討②	事例を設定し、作業療法評価から治療プログラム立案までを演習を通して学ぶ。
30	事例検討③	事例を設定し、作業療法評価から治療プログラム立案までを演習を通して学ぶ。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		・各テーマ毎に事前学習を徹底して行い、授業にスムーズに臨むこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		・脳卒中最新線 第4版 医歯薬出版 ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 医学書院 ・コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像 メジカルビュー社 ・病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版 メディックメディア
参 考 書		・講義毎に配布します。 ・考える作業療法 活動能力障害に対して 文光堂
授業の留意点・備考		・講義と演習を交えながら進行するため、実習着等の準備を怠らないこと。（結髪、爪等） ・課題が課された場合は提出期限を厳守すること。

科目名		中枢神経疾患系演習						担当教員		有働 正二郎	
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での経験を活かし、身体障害分野での神経変性疾患、神経筋疾患、中枢神経疾患の作業療法について、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		・基礎医学の知識を踏まえ、神経変性疾患・神経筋疾患・中枢神経疾患の評価法および作業療法アプローチを修得する。 ・評価から治療の実施に至る作業療法過程を理解し、具体的な治療手段を学ぶ。									
到 達 目 標		神経変性疾患・神経筋疾患・中枢神経疾患の臨床像について説明できる。疾患特有の評価法を実施でき、対象者の生活機能と疾患に起因する障害について説明できる。疾患特有の作業療法の目標について説明できる。作業療法の治療・指導・援助方法、方法、手段について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	パーキンソン病とは			パーキンソン病の病態について学習し、大脳基底核の仕組みについても学習する							
2	パーキンソン病の薬物療法			パーキンソン病の薬物療法について、その種類と効果について学習する							
3	パーキンソン病の主症状			パーキンソン病の主症状について学習する							
4	パーキンソン病の評価			パーキンソン病の作業療法の身体・精神機能面、日常生活活動面の評価について演習する							
5	パーキンソン病の介入方法①			パーキンソン病初期（ヤールのstageⅠ-Ⅲ）の治療的介入・援助・指導について演習する							
6	パーキンソン病の介入方法②			パーキンソン病初期（ヤールのstageⅣ-Ⅴ）の治療的介入・援助・指導について演習する							
7	パーキンソン病の介入方法③			仮想ケースでの演習を行う							
8	脊髄小脳変性症の症状			脊髄小脳変性症の脊髄・小脳症状について学習する							
9	脊髄小脳変性症の評価			脊髄小脳変性症の作業療法評価の身体・精神・日常生活活動について演習する							
10	脊髄小脳変性症の介入方法			脊髄小脳変性症の重症度分類別（初期・中期・後期）での治療的介入・援助・指導について演習する							
11	筋萎縮性側索硬化症の症状と評価			筋萎縮性側索硬化症の症状・評価を学習する							
12	筋萎縮性側索硬化症の介入方法			筋萎縮性側索硬化症の病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する							
13	多発性硬化症の症状と評価			多発性硬化症の症状・評価を学習する							
14	多発性硬化症の介入方法			多発性硬化症の病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する							
15	ギランバレー症候群の症状と評価①			ギランバレー症候群の症状・評価を学習する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	ギランバレー症候群の症状と評価②	ギランバレー症候群の症状・評価を学習する
17	ギランバレー症候群の介入方法	ギランバレー症候群の病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する
18	重症筋無力症の症状と評価	重症筋無力症の症状・評価を学習する
19	重症筋無力症の介入方法	重症筋無力症の病期に応じた治療的介入・援助・指導について演習する
20	神経変性疾患・神経筋疾患まとめ	神経変性疾患及び神経筋疾患についてまとめを行う
21	脊髄損傷の基礎	脊髄の構造と感覚・運動神経伝導路について学習する
22	脊髄損傷の症状と合併症	脊髄損傷後の神経症状と合併症について学習する
23	脊髄損傷の評価①	脊髄損傷の評価の概要と目標設定について学習する
24	脊髄損傷の評価②	機能分類（ASIA、Frankel、Zancolli）について学習する
25	脊髄損傷の介入方法①	基本的な介入方法について学び、上肢機能訓練について演習する
26	脊髄損傷の介入方法②	基本的な介入方法について学び、床上動作訓練について演習する
27	脊髄損傷の介入方法③	基本的な介入方法について学び、除圧・移乗・車椅子駆動について演習する
28	脊髄損傷とADL①	レベル別の詳細のADLについて学習する（高位頸損）
29	脊髄損傷とADL②	レベル別の詳細のADLについて学習する（低位頸損）
30	脊髄損傷とADL③ 脊髄損傷まとめ	社会復帰への支援（住宅改修、環境制御装置等）の援助・指導について学習する
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		様々な疾患を学習するため、単元ごとに授業内容を整理し復習しておくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☒ レポート（ 10 % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ ）
教 科 書		・パーキンソン病の理解とリハビリテーション 三輪書店 ・「標準作業療法学 身体機能作業療法学」医学書院 ・「病気がみえる 脳・神経」MEDIC MEDIA
参 考 書		特になし
授業の留意点・備考		・配布資料が多くなるのでファイルにして整理しておくこと。

科目名	骨・関節疾患系演習						担当教員	野仲 泰良			
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	臨床経験を活かして、身体障害分野での運動器疾患に対する作業療法について、講義・演習を行う。										
授 業 概 要	2年次に習得した整形外科学をもとに、復習を行い病態の理解に努める。また、基礎をもとに、各骨関節疾患に対するリスク管理を把握した上で、作業療法評価を行えるようにする。その評価結果をもとに、対象者のニーズを聞き出し、今後の生活を考えた訓練プログラムの立案や説明が実施でき、評価実習へと結びつける。										
到 達 目 標	・運動学や解剖学の再復習を行い、治療と結び付ける。 ・疾患毎の大まかな作業療法介入を把握できる。										
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	オリエンテーション骨折の原因(骨粗鬆症について)骨折の概要(骨折の名称と部位等)				オリエンテーション、骨折の原因(骨粗鬆症)、骨折の概要(骨折の名称と部位等)、骨折の分類と合併症について学習する						
2	画像評価				骨・関節に関する画像評価を学習し、演習する。						
3	評価・目標・プログラムの概要				骨・関節に関する作業療法評価・治療を学習する。						
4	上腕骨近位端骨折の評価・介入				上腕骨骨折の作業療法評価と介入を学習する。						
5	橈骨遠位端骨折の評価・介入				橈骨遠位端骨折の作業療法評価と介入を学習する。						
6	橈骨遠位端骨折の症例提示				橈骨遠位端骨折の症例についてグループワークで検討・発表する。						
7	腱損傷の評価・介入				腱損傷の作業療法評価と介入を学習する。						
8	脊椎圧迫骨折の評価・介入				脊椎圧迫端骨折の作業療法評価と介入を学習し、演習する。						
9	大腿骨頸部骨折の評価・介入				大腿骨頸部骨折の作業療法評価と介入を学習する。						
10	大腿骨頸部骨折の症例提示				大腿骨頸部骨折の症例についてグループワークで検討・発表する。						
11	関節リウマチの評価・介入				関節リウマチの作業療法評価と介入を学習し演習する。						
12	関節リウマチの症例提示				橈骨遠位端骨折の症例についてグループワークで検討・発表する。						
13	末梢神経損傷の評価・介入				末梢神経損傷の作業療法評価と介入を学習し演習する。						
14	熱傷の評価・介入				熱傷の作業療法評価と介入を学習し演習する。						
15	切断の評価・介入				切断の作業療法評価と介入を学習し演習する。						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		事前学習プリントを配布するため、講義前には完成させておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (20 %) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 ・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 第1版									
参 考 書		授業毎に配布する。									
授業の留意点・備考		・グループワーク等へ積極的に参加し、意見を言うこと ・事前学習を徹底して行う。小テストや確認テストも実施する									

科目名		精神障害治療学総論						担当教員		山田 勝久	
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科領域の作業療法実務に携わった経験を活かし、精神科領域の作業療法実践で求められる態度や知識について講義を行う。									
授 業 概 要		精神科作業療法の視点、治療構造、実践プロセスなどについて学び、これまで習得した知識と統合することで、臨床における治療、援助計画に必要な知識・技術を習得する。									
到 達 目 標		1. 精神障害の特性を説明することが出来る 2. 精神科作業療法の治療構造を説明することができる 3. 作業療法の実施形態と実践プロセスを説明することができる 4. 疾患別の作業療法について回復段階に応じた説明をすることができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	授業概要のオリエンテーション Web			授業内容と流れについて理解する							
2	精神医療と精神科作業療法のあゆみ Web			精神保健医療福祉の流れと作業療法の役割を理解する							
3	精神障害とは Web			身体障害と比較した精神障害の特徴を理解する							
4	精神障害とは Web			リハビリ概念を理解する							
5	精神障害に対する作業療法の視点			回復段階に応じた精神科作業療法の役割について理解する							
6	精神障害に対する作業療法の視点			回復段階に応じた精神科作業療法の役割について理解する							
7	作業療法の治療・援助構造と治療機序			作業の治療的特性とその適用について理解する							
8	作業療法の治療・援助構造と治療機序			作業の治療的特性とその適用について理解する							
9	作業療法の治療・援助構造と治療機序			自己（作業療法士自身）の治療的意味合いとその適用について理解する							
10	作業療法の治療・援助構造と治療機序			自己（作業療法士自身）の治療的意味合いとその適用について理解する							
11	作業療法の治療・援助構造と治療機序			集団の治療的意味合いとその適用について理解する							
12	作業療法の治療・援助構造と治療機序			その他の因子の治療的意味合いとその適用について理解する							
13	ライフサイクルと生活課題			エリクソンの人間発達について理解する							
14	ライフサイクルと生活課題			ライフストーリーワーク演習							
15	精神科作業療法の実践プロセス			精神科作業療法の実践プロセスを理解する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の障害像について理解する
17	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の障害像について理解する
18	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の回復段階と作業療法の役割について理解する
19	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の回復段階と作業療法の役割について理解する
20	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の回復段階と作業療法の役割について理解する
21	疾患別作業療法（統合失調症）	統合失調症の回復段階と作業療法の役割について理解する
22	疾患別作業療法（統合失調症）	長期入院者に対する作業療法の役割について理解する（ケーススタディー）
23	疾患別作業療法（気分障害）	気分障害の障害像について理解する
24	疾患別作業療法（気分障害）	気分障害の障害像について理解する
25	疾患別作業療法（気分障害）	気分障害の回復段階と作業療法の役割について理解する
26	疾患別作業療法（気分障害）	気分障害の回復段階と作業療法の役割について理解する
27	疾患別作業療法（神経症性障害）	神経症性障害の障害像について理解する
28	疾患別作業療法（神経症性障害）	神経症性障害の障害像について理解する
29	疾患別作業療法（神経症性障害）	神経症性障害の作業療法の役割について理解する
30	疾患別作業療法（神経症性障害）	神経症性障害の作業療法の役割について理解する
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		精神障害と作業療法 一病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践－ 新版 作業療法学全書 作業治療学 2 精神障害 協同医書
参 考 書		精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規
授業の留意点・備考		グループワーク等の参加型の授業では、積極的に意見を提示し討議に参加すること

科目名	精神障害治療学各論							担当教員	山田 勝久		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科領域の作業療法実務に携わった経験を活かし、精神科領域の作業療法実践で求められる態度や知識について講義を行う。									
授 業 概 要		精神障害評価法・精神障害治療学総論で習得した精神科作業療法の基礎技術を基盤に、摂食障害その他の精神疾患に対する作業療法について実践的に学ぶ。									
到 達 目 標		疾患毎の精神科作業療法プログラムを回復段階を踏まえて説明することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	疾患・障害に応じた作業療法（摂食障害）			摂食障害の分類や発症モデルを理解する							
2	疾患・障害に応じた作業療法（摂食障害）			摂食障害の障害像と評価のポイントを理解する							
3	疾患・障害に応じた作業療法（摂食障害）			摂食障害に対する作業療法について説明することができる							
4	疾患・障害に応じた作業療法（人格障害）			境界性人格障害の障害像と評価のポイントを理解する							
5	疾患・障害に応じた作業療法（人格障害）			境界性人格障害に対する作業療法について理解する							
6	疾患・障害に応じた作業療法（人格障害）			境界性人格障害に対する作業療法について理解する							
7	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の心理を理解する							
8	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の回復過程を理解する							
9	疾患・障害に応じた作業療法（依存症）			依存症の回復と作業療法の役割を理解する							
10	疾患・障害に応じた作業療法（認知症）			認知症の障害像を理解する							
11	疾患・障害に応じた作業療法（認知症）			認知症者の心理について理解する							
12	疾患・障害に応じた作業療法（認知症）			認知症の回復段階と障害特性に応じた作業療法の役割を理解する							
13	疾患・障害に応じた作業療法（認知症）			認知症の回復段階と障害特性に応じた作業療法の役割を理解する							
14	疾患・障害に応じた作業療法（発達障害）			発達障害（自閉スペクトラム症）の障害像を理解する							
15	疾患・障害に応じた作業療法（発達障害）			発達障害（自閉スペクトラム症）の特性に応じた作業療法の役割を理解する							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		精神障害と作業療法 一病いを生きる、病いと生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 新版 作業療法学全書 作業治療学2 精神障害 協同医書									
参 考 書		精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版 中央法規									
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。									

科目名		精神疾患系演習					担当教員		那須 美紀 山田 勝久		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科作業療法に携わった経験を活かし、集団活動を中心とした精神科作業療法で必要な技術を講義・演習する									
授 業 概 要		精神障害評価法・精神障害治療学で習得した精神科作業療法の基礎技術が実践できることを目標に、演習を行っていく									
到 達 目 標		①疾患ごとの精神科作業療法プログラムを立案することが出来る ②集団作業療法プログラムを企画・実践することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 集団活動について①			授業全体のオリエンテーションを行う レクリエーションとは、原則、目的、立案方法について学ぶ							
2	集団活動について②			レクリエーションの流れ、進行上の留意点、役割の分担について学ぶ							
3	レクリエーション企画・準備①			グループに分かれ、レクリエーションの企画を行う。企画後は準備、進行練習を行う							
4	レクリエーション企画・準備②			グループに分かれ、レクリエーションの企画を行う。企画後は準備、進行練習を行う							
5	レクリエーション企画・準備③			グループに分かれ、レクリエーションの企画を行う。企画後は準備、進行練習を行う							
6	レクリエーション企画・準備④			グループに分かれ、レクリエーションの企画を行う。企画後は準備、進行練習を行う							
7	レクリエーション実施・フィードバック①			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
8	レクリエーション実施・フィードバック②			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
9	レクリエーション実施・フィードバック③			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
10	レクリエーション実施・フィードバック④			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
11	レクリエーション実施・フィードバック⑤			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
12	レクリエーション実施・フィードバック⑥			1つのグループの実践。終了後は全体でフィードバックを行なう							
13	SSTについて①			SSTの概要、流れ、進め方について学ぶ							
14	SSTについて②			SSTのプログラム体験を行う							
15	認知行動療法について			認知行動療法とは、うつ病における認知行動療法の流れや認知行動療法を理解する上で必要な考えを学ぶ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☒ 課題（ 10 % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ ）									
教 科 書		身振りでも語ろう 適応・時間別54の治療ゲーム集									
参 考 書		作業療法全書 作業治療学2 精神障害 協同医書、精神障害と作業療法 第2版 三輪書店、精神障害の理解と精神科作業療法 中央法規									
授業の留意点・備考		本授業は演習中心である。各自意識を持ち、積極的に取り組むこと									

科目名		発達障害治療学					担当教員		平田 未来子			
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容		作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児療育医療センターへ勤務し、重症心身障害児・者、発達障害児の治療、療育、指導の経験を活かし、発達障害における治療について講義・演習を行うことができる。										
授 業 概 要		発達障害評価法・演習で学習したことをより具体的に活用しながら発達障害領域の各疾患について、臨床像、評価、治療、援助方法について学習する。										
到 達 目 標		発達障害の作業療法の実践課程について理解し説明することができる。新生児疾患、脳性麻痺、重症心身障害、知的発達障害について臨床像、評価、治療、援助方法について理解し、説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	発達障害作業療法の実践課程				発達障害の現場における基本的実践課程について学ぶ							
2	新生児疾患（NICU対象児）①				疾患、障害、臨床像について学ぶ							
3	新生児疾患（NICU対象児）②				作業療法評価、アプローチについて学ぶ							
4	脳性麻痺①				疾患、障害、臨床像について学ぶ							
5	脳性麻痺②				評価、検査について学ぶ							
6	脳性麻痺③				痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺の特徴を学ぶ							
7	脳性麻痺④				痙直型片麻痺、アテトーゼ型の特徴を学ぶ							
8	脳性麻痺⑤				作業療法アプローチを学ぶ							
9	重症心身障害①				疾患、障害、臨床像について学ぶ							
10	重症心身障害②				評価、検査について学ぶ							
11	重症心身障害③				摂食機能障害のある子どもへの作業療法について学ぶ							
12	重症心身障害④				作業療法アプローチについて学ぶ							
13	知的発達障害①				疾患、障害、臨床像について学ぶ							
14	知的発達障害②				評価、検査について学ぶ							
15	知的発達障害③				作業療法アプローチについて学ぶ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおく。 講義ノートを復習しておく。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 100 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）										
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第2版：医学書院										
参 考 書		イラストでわかる人間発達学：医歯薬出版 イラストでわかる発達障害の作業療法：医歯薬出版										
授業の留意点・備考		授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。 演習によっては動きやすい服装での受講をお願いする場合があります。										

科目名	発達障害治療学演習					担当教員	平田 未来子				
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業治療学					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		小児療育医療センターへ勤務し、重症心身障害児・者、発達障害児の治療、療育、指導の経験を活かし、発達障害における治療について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		発達障害評価法・演習で学習したことをより具体的に活用しながら発達障害領域の各疾患について、臨床像、評価、治療、援助方法について学習する。									
到 達 目 標		自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如多動性障害、進行性筋ジストロフィー、二分脊椎症、分娩麻痺について臨床像、評価、治療、援助法について理解し説明できる。発達障害児の具体的なアプローチについて理解し、説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	自閉症スペクトラム障害①					疾患、障害、臨床像について学ぶ					
2	自閉症スペクトラム障害②					評価、検査について学ぶ					
3	学習障害 (LD)					疾患、障害、臨床像について学ぶ					
4	注意欠如多動性障害 (ADHD)					疾患、障害、臨床像について学ぶ					
5	発達障害の作業療法①					具体的な作業療法アプローチを学ぶ					
6	発達障害の作業療法②					具体的な作業療法アプローチを学ぶ					
7	発達障害の作業療法③					具体的な作業療法アプローチを学ぶ					
8	発達障害の作業療法④					具体的な作業療法アプローチを学ぶ					
9	治療道具作製①					グループにて話し合いを行う					
10	進行性筋ジストロフィー					疾患、障害、臨床像、作業療法アプローチを学ぶ					
11	治療道具作製②					グループ別に選択した症例の治療道具作製					
12	治療道具作製③					グループ別に選択した症例の治療道具作製					
13	二分脊椎症					疾患、障害、臨床像、作業療法アプローチを学ぶ					
14	分娩麻痺、その他疾患					疾患、障害、臨床像、作業療法アプローチを学ぶ					
15	治療道具についての発表					グループ別に発表、まとめ					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおくこと。 講義ノートを復習しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (5 %) ☒ 発表 (5 %) ☐ その他 (%)									
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第2版：医学書院									
参 考 書		イラストでわかる人間発達学：医歯薬出版 イラストでわかる発達障害の作業療法：医歯薬出版									
授業の留意点・備考		授業で配布する資料・プリントは必ずファイリングしておくこと。 演習によっては動きやすい服装での受講をお願いする場合があります。									

科目名		老年期障害治療学					担当教員		那須 美紀			
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	作業治療学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		精神科病院で高齢者の作業療法に携わった経験をいかし、老年期における特徴や捉え方老年期リハビリテーションにおける作業療法士の役割などを講義する										
授 業 概 要		老年期の社会的特徴や身体的特徴などを踏まえた上で老年期における作業療法士としての介入のポイントを理解する。										
到 達 目 標		①老年期の特徴、作業療法の介入を理解することができる ②介入時のリスク管理の視点を学び、対応することが出来る										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション ひとの老いと作業療法①				全体のオリエンテーション 日本の人口から見た今後の老年期の問題について学ぶ							
2	ひとの老いと作業療法②				老年期の生活体験、ライフコースと高齢者の健康の実態について学ぶ							
3	老年期の特徴について				老年期の特徴を学ぶ							
4	QOLと健康の増進				QOLの概念、健康関連QOLとその評価について、健康の増進と作業療法、健康寿命について学ぶ							
5	老年期作業療法における介入①				作業の準備状態をつくること、ADL・IADLの遂行を支援すること、役割を引き出す、余暇活動の遂行を支援することを学ぶ							
6	老年期作業療法における介入②				近隣援助技術を活用する（回想法）について学ぶ							
7	老年期作業療法における介入③				近隣援助技術を活用する（音楽活動・園芸活動）について学ぶ							
8	老年期作業療法における介入④				近隣援助技術を活用する（パーソンセンタード・ケア、バリデーション・ユマニチュード）について学ぶ							
9	リスク管理について①				リスク管理の基本、身体運動のリスク管理、よくみられる症状・病態、緊急時の対応を学ぶ							
10	リスク管理について②				生活の中のリスク管理、認知症のある方のリスク管理について学ぶ							
11	介護家族との関わり				家族と高齢者介護、作業療法と介護家族について学ぶ							
12	連携について				連携とは、作業療法士と連携、地域づくりと連携について学ぶ							
13	訪問の目的とサービス内容				老年期における訪問作業療法が考える2つの視点、自宅生活における特徴について学ぶ							
14	通所の目的とサービス内容				各通所系サービスの機能、通所系サービスにおける作業療法士の支援について学ぶ							
15	入所の目的とサービス内容				サービス内容、生活期のリハビリテーション、終末期のリハビリテーションについて学ぶ							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容												
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）										
教 科 書		老年期の作業療法 改訂第3版（三輪書店）										
参 考 書		作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学（メジカルビュー）、作業療法学全書 作業治療学4 老年期（協同医書出版社）										
授業の留意点・備考												

科目名		老年期障害治療学演習						担当教員		山田 勝久	
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床経験を活かして、老年期における作業療法について、講義を行う									
授 業 概 要		高齢者の特徴を踏まえ、作業療法評価、治療的介入・指導・援助について理解を深める。また、高齢者の特性に留意し作業療法介入におけるリスク管理を学ぶ。									
到 達 目 標		1. 高齢者に対する作業療法評価、プログラム立案を実践することができる 2. 高齢者に対するリスク管理について説明できる 3. 仮想ケースのケーススタディを通して、作業療法評価からプログラム立案について理解することができる 4. 高齢者の特性とニーズに応じた作業療法プログラムを立案・実践することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			授業概要の説明							
2	老年期の特徴と発達課題			エリクソンの発達理論における老年期の課題を理解する							
3	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（インタビュー演習）							
4	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（インタビュー演習）							
5	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（インタビュー演習）							
6	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（インタビュー演習）							
7	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（報告会）							
8	老年期の特徴と発達課題			高齢者へのライフストーリーレビューを実施する（報告会）							
9	高齢者に対する作業療法評価			高齢者の生活機能と環境を評価する（演習）							
10	高齢者に対する作業療法評価			高齢者の生活機能と環境を評価する（演習）							
11	高齢者に対する作業療法評価			高齢者の生活機能と環境を評価する（演習）							
12	高齢者に対する作業療法評価			高齢者の生活機能と環境を評価する（演習）							
13	高齢者に対する作業療法プログラム立案			評価した情報のまとめと作業療法プログラム立案							
14	高齢者に対する作業療法プログラム立案			評価した情報のまとめと作業療法プログラム立案							
15	高齢者に対する作業療法プログラム立案			評価した情報のまとめと作業療法プログラム立案（報告会）							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	高齢者に対する作業療法プログラム立案	評価した情報のまとめと作業療法プログラム立案（報告会）
17	高齢者に対する作業療法プログラム立案	集団作業療法プログラムの立案
18	高齢者に対する作業療法プログラム立案	集団作業療法プログラムの立案
19	高齢者に対する作業療法プログラム立案	集団作業療法プログラムの立案
20	高齢者に対する作業療法プログラム立案	集団作業療法プログラムの立案
21	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
22	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
23	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
24	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
25	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
26	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムの実践
27	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムのレビューと効果判定
28	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムのレビューと効果判定
29	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムのレビューと効果判定
30	高齢者に対する作業療法プログラムの実践	集団作業療法プログラムのレビューと効果判定
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		老年期治療学、精神障害治療学各論（認知症）で学習した内容を十分に理解し、実践に活かすこと
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30 %） ☒ 課題（ 50 %） ☒ 発表（ 20 %） ☐ その他（ ）
教 科 書		浅海奈津美他：老年期の作業療法 改訂第3版．三輪書店，2018．
参 考 書		※都度資料を教員が準備します
授業の留意点・備考		演習系の授業では、対象者や施設スタッフに対する態度など、医療職を目指す者としての自覚を持ち、適度な緊張感を持って臨むこと 作業療法プログラム計画書等の課題を課すため、提出期限の遅延がないよう努めること

科目名		高次脳機能障害治療学演習						担当教員		竹本 舞	
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		高次脳機能障害を呈した症例に関わってきた経験を活かして、高次脳機能障害の治療について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、失語、失行、失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害)に対する作業療法の実践的アプローチについて演習を通して学ぶ。									
到 達 目 標		1. 高次脳機能障害と責任病巣が列挙できる。 2. 高次脳機能障害の治療戦略が説明できる。 3. 各高次脳機能障害の作業療法計画の立案ができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	高次脳機能障害作業療法学の基礎			高次脳機能障害と責任病巣、評価の知識の整理をする。							
2	高次脳機能障害の治療方法と治療戦略			高次脳機能障害の治療方法と治療戦略について学習する。							
3	小テスト①			高次脳機能障害と責任病巣の小テストを実施する。							
4	注意障害の作業療法			注意障害の作業療法(全般的・戦略的アプローチ、自己指示法)について学習する。							
5	注意障害の作業療法計画立案①			グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する。(文献検索にて)							
6	注意障害の作業療法計画立案②			グループで注意障害に対する治療プログラムを立案を演習する。(レジュメ作成)							
7	注意障害の作業療法計画発表①			グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(前半2班)をする。							
8	注意障害の作業療法計画発表②			グループで立案した注意障害に対する治療プログラムの発表(後半2班)をする。							
9	記憶障害の作業療法			記憶障害の作業療法(内的・外的方略の獲得、環境調整)の学習をする。							
10	失語の作業療法			失語の作業療法(コミュニケーション活動に着目したアプローチ)の学習をする。							
11	失認の作業療法			失認の作業療法(知覚の再教育、代償手段の獲得)を学習する。							
12	失行の作業療法			失行の作業療法(概念・生産系へのアプローチ、エラーに対応したアプローチ)を学習する。							
13	失行の作業療法計画立案①			グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(文献検索)を演習する。							
14	失行の作業療法計画立案②			グループで観念失行に対する治療プログラムを立案(レジュメ作成)を演習する。							
15	失行の作業療法計画発表①			グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(前半2班)する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	失行の作業療法計画発表②	グループで立案した観念失行に対する治療プログラムの発表(後半2班)する。
17	小テスト②	注意障害、記憶障害、失語、失行に対する治療の小テストを実施する。
18	半側空間無視の作業療法	半側空間無視の作業療法(ボトムアップ・トップダウンアプローチ)を学習する。
19	半側空間無視の作業療法計画立案①	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する。(文献検索)
20	半側空間無視の作業療法計画立案②	グループで半側空間無視に対する治療プログラムを立案を演習する。(レジュメ作成)
21	半側空間無視の作業療法計画発表①	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(前半2班)する。
22	半側空間無視の作業療法計画発表②	グループで立案した半側空間無視に対する治療プログラムの発表(後半2班)する。
23	半側空間無視の作業療法の実際	半側空間無視の作業療法の実際(DVD鑑賞)を学習する。
24	遂行機能障害の作業療法	遂行機能障害の作業療法(メタ認知・問題解決・目標管理トレーニング、複合的アプローチ)を学習する。
25	遂行機能障害の作業療法(調理訓練)①	遂行機能障害者に対する調理訓練を演習を通して学ぶ。
26	遂行機能障害の作業療法(調理訓練)②	遂行機能障害者に対する調理訓練を演習を通して学ぶ。
27	社会的行動障害の作業療法	社会的行動障害の作業療法(衝動的な怒りに対する行動的・認知的アプローチ)を学習する。
28	高次脳機能障害と就労支援	高次脳機能障害に対する就労支援の実際を学習する。
29	小テスト③	失認、半側空間無視、遂行機能障害、社会的行動障害に対する治療の小テストを実施する。
30	復習	高次脳機能障害の治療の知識を整理する。
準備学習(予習復習)の具体的な内容		高次脳機能障害の評価について、教科書を基に予習しておく。
成 績 評 価		☒ 定期試験 (30 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☒ 発表 (60 %) ☐ その他()
教 科 書		標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版: 医学書院 高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版: 医歯薬出版株式会社
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		グループ活動を行う際には協力して行う。

科目名	日常生活活動演習					担当教員	竹本 舞				
学科	作業療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	身体障害領域で、あらゆる疾患や病期に応じて関わってきた経験を活かして、日常生活活動(手段的日常生活活動を含む)に対する基本的な作業療法について、講義・演習を行う。										
授業概要	日常生活活動(ADL)に支障を来した症例の評価および指導・援助方法について演習を通して学ぶ。										
到達目標	・ADL評価の目的、視点、方法を説明できる。 ・ADL評価、指導・援助方法を説明できる。 ・自助具、福祉用具を列挙でき、特徴を説明できる。										
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	ADLと福祉用具 ソックスエイドの作成	ADLと福祉用具及びADL・IADL場面別の自助具について学習し、ソックスエイド作製の演習を行う。									
2	食事動作の評価	食事動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の食事場面の動画を見て評価を行う)課題①									
3	食事動作の評価と指導・援助方法	食事動作の評価と指導・援助方法(食べこぼしの原因と援助方法)について学習し、箸操作訓練の段階付けについて演習する。									
4	整容動作の評価と指導・援助方法①	整容動作の評価と指導・援助方法について学習する。									
5	整容動作の評価と指導・援助方法②	整容に関する自助具をグループで作製し発表する。									
6	排泄動作の評価	排泄動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の排泄場面の動画を見て評価を行う)課題②									
7	排泄動作の評価と指導・援助方法	片麻痺者の排泄動作の問題点とその原因を学習し、片麻痺者への指導と援助方法についての演習を行う。									
8	更衣動作の評価	更衣動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の更衣場面の動画を見て評価を行う)課題③									
9	更衣動作の評価と指導・援助方法	片麻痺患者の更衣動作の指導・援助方法の演習を行う。									
10	入浴動作の評価	入浴動作の評価演習を行う。 (片麻痺患者の入浴場面の動画を見て評価を行う)課題④									
11	入浴動作の評価と指導・援助方法、リフト体験	入浴動作の評価と指導・援助方法を学習し、リフトの演習を行う。									
12	障害別のADL指導・援助方法	障害別のADL指導・援助方法、自助具と適応疾患について学習し、片麻痺患者に対する三角巾の装着の演習を行う。									
13	IADLの指導・援助方法(カレー作り)①	片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)									
14	IADLの指導・援助方法(カレー作り)②	片麻痺患者の調理動作演習(カレーを作る)									
15	復習	日常生活活動演習での知識の整理を行う。									
準備学習(予習復習)の具体的な内容	教科書の予習・復習を十分にを行い、テキストを見なくても評価ができるようになるよう、評価基準を熟知すること。										
成績評価	☒ 定期試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ 課題 (40 %) ☒ 発表 (40 %) ☐ その他 ()										
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL):メジカルビュー社										
参考書	適宜資料を配布										
授業の留意点・備考	・演習は実習着を着用する。 ・課題提出の期限を厳守する。										

科目名		義肢装具学演習					担当教員		帆 鷲 輝 誌 男			
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験			義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。（日本義肢装具学会員でもある。）									
授 業 概 要			義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。									
到 達 目 標			作業療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようにする。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション				装具概論（定義・体系別分類・機能による分類・義肢装具の歴史）							
2	装具各論：頸椎・仙腸装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
3	装具各論：腰仙椎・胸腰仙椎装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
4	装具各論：側彎矯正装具				病因別分類・治療プログラム・機能・構造・チェックアウトについて理解する。							
5	装具各論：長対立装具・短対立装具				スプリントの種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
6	装具各論：手関節背屈装具				スプリントの種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
7	装具各論：指装具				スプリントの種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
8	装具各論：MP関節装具				スプリントの種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
9	装具各論：把持装具				スプリントの種類・機能・目的・適応・チェックアウトについて理解する。							
10	装具各論：肩装具・肘装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。							
11	装具各論：特殊装具				食事動作補助器・関節リウマチに対するスプリントについて理解する。							
12	装具各論：下肢装具				基本構造・種類・機能・目的・適応疾患・チェックアウトについて理解する。							
13	演習：上肢装具の製作				スプリントの製作工程・トレースの基本・型紙・チェックアウトを理解する。							
14	演習：上肢装具の採型				ギブス包帯を用いて上肢装具の採型を体験する。							
15	装具学の総論				試験の解説後体幹・下肢・上肢装具の練習問題をする。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			・リハビリテーション義肢装具学 第1版（メジカルビュー社） ・義肢装具のチェックポイント 第8版（医学書院）									
参 考 書			教科書と同様									
授業の留意点・備考			配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。									

科目名	義肢装具学演習						担当教員	帆 鷲 輝 誌 男			
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	作業治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。（日本義肢装具学会員でもある。）										
授 業 概 要	義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び義肢の適合判定について演習を取り入れて学習する。										
到 達 目 標	作業療法士として症状・状態等を理解して、適応する義肢を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようにする。										
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	義肢各論：概論					義肢装具の歴史・定義・体系別分類・機能による分類について理解する。					
2	義肢各論：切断と義肢の基礎知識					切断部位による分類と切断レベルとソケットのデザインについて理解する。					
3	義肢各論：義手のソケット					肩・上腕・前腕・手義手のソケット種類・特徴について理解する。					
4	義肢各論：筋電義手					筋電義手のソケットの機能・特徴について理解する。					
5	義肢各論：義手の構成部品					肩継手・肘継手・手継手・手先具の種類・構造について理解する。					
6	義肢各論：義手の構造					前腕・上腕義手の名称・義手の長さについて理解する。					
7	義肢各論：力の伝達					ハーネスの目的・コントロールケーブルシステムについて理解する。					
8	義肢各論：前腕義手					前腕義手の適合検査（チェックアウト）について理解する。					
9	義肢各論：肩義手・上腕義手					上腕義手の適合検査（チェックアウト）について理解する。					
10	義肢各論：義足					義足の種類と特徴・切断の部位による分類・構成部品・チェックアウト					
11	義肢各論：疑似体験					模擬体験義手による把持動作等の試用評価を理解する。					
12	演習：上肢装具の製作					陽性モデルを用いて、プラスチックの成型加工をする。					
13	演習：上肢装具の製作					プラスチックのトリミング後仮合わせのチェックアウトを理解する。					
14	演習：上肢装具のチェックアウト					上肢装具の適合を評価するために、装具装着して体験評価する。					
15	義肢学の総論					試験の解説後義手・義足の練習問題をする。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		・リハビリテーション義肢装具学 第1版(メジカルビュー社) ・義肢装具のチェックポイント 第8版(医学書院)									
参 考 書		教科書と同様									
授業の留意点・備考		配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。									

科目名		作業療法基礎特論演習					担当教員		作業療法・理学療法学科教員 非常勤講師			
学科	作業療法学科		年次	4	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		作業治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。										
授 業 概 要		臨床実習において必要な作業療法の基礎知識を演習を通して学ぶ。										
到 達 目 標		臨床実習において必要な作業療法の基礎知識を習得する。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	長期実習総論				長期実習の概要を学ぶ。							
2	身体障害系実習の心得				身体障害領域の臨床実習での心得を学ぶ。							
3	身体障害系実習の心得				身体障害領域の臨床実習での心得を学ぶ。							
4	画像所見				評価に必要な画像のみかたを学ぶ。							
5	画像所見				評価に必要な画像のみかたを学び、演習する。							
6	精神障害系実習の心得				精神障害領域の臨床実習での心得を学ぶ。							
7	精神障害系実習の心得				精神障害領域の臨床実習での心得を学ぶ。							
8	トランスファー、治療実技				トランスファーの実技、治療実技を学び、演習する。							
9	トランスファー、治療実技				トランスファーの実技、治療実技を学び、演習する。							
10	感染予防・リスク管理				医療従事者としての感染に対する心得を学ぶ。							
11	感染予防・リスク管理				医療従事者としてのリスク管理に対する心得を学ぶ。							
12	精神科実習の概要、レポート作成				長期実習で必要なレポート作成を学ぶ。							
13	精神科実習の概要、レポート作成				長期実習で必要なレポート作成を学び演習する。							
14	物理療法				物理療法の概要を学ぶ。							
15	物理療法				物理療法の概要を学ぶ。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	精神科作業療法におけるレク・アクティビティ	精神科実習に必要なレクリエーション、activityを学ぶ。
17	精神科作業療法におけるレク・アクティビティ	精神科実習に必要なレクリエーション、activityを学び演習する。
18	実習について	長期臨床実習の概要や目的を学ぶ。
19	実習について	長期臨床実習の概要や目的を学ぶ。
20	身体障害レポート作成	長期実習に必要なレポート作成を学ぶ。
21	身体障害レポート作成	長期実習に必要なレポート作成を学び演習する。
22	高次機能障害の治療・技術	高次脳機能障害に対する治療技術を学ぶ。
23	高次機能障害の治療・技術	高次脳機能障害に対する治療技術を学び演習する。
24	地域実習の心得	地域領域の臨床実習での心得を学ぶ。
25	地域実習の心得	地域領域の臨床実習での心得を学ぶ。
26	介護保険制度	介護保険の概要、制度を学ぶ。
27	介護保険制度	介護保険の概要、制度を学び、福祉用具や環境調整の演習をする。
28	MTDLP概論	MTDLPの概要を学ぶ。
29	MTDLP演習	事例提示を行い、MTDLPを用いて演習する。
30	MTDLP演習	事例提示を行い、MTDLPを用いて演習する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		各テーマの前には事前学習に努めること。
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 90 %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		講義および演習を行う。演習の際は実習着を忘れないこと。

科目名		作業療法臨床特論演習						担当教員		作業療法学科専任教員		
学科	作業療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容		作業治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		作業療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。										
授 業 概 要		作業療法専門領域の国家試験問題を解きながら知識を整理する。										
到 達 目 標		・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の知識を習得する。 ・身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法専門領域の用語を説明することができる。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	作業活動①				作業療法で用いる道具について学習する。							
2	作業活動②				作業活動の適用と実施について学習する。							
3	作業療法概論①				作業療法士法、精神保健等について学習する。							
4	作業療法概論②				就労支援、医療記録、感染対策について学習する。							
5	評価法①				関節可動域測定、MMT、感覚検査について学習する。							
6	評価法②				BRS、ADLの評価法、評価法総論について学習する。							
7	日常生活活動①				摂食・嚥下機能、自助具について学習する。							
8	日常生活活動②				住環境整備、車椅子やポジショニングについて学習する。							
9	義肢装具①				上肢装具の適用と作製について学習する。							
10	義肢装具②				義手の名称、チェックアウト等を学習する。							
11	老年期障害①				生理的老化、廃用症候群について学習する。							
12	老年期障害②				認知症、器質性精神障害について学習する。							
13	脳血管障害①				各病態の理解、病期の特徴を学習する。							
14	脳血管障害②				高次脳機能障害について学習する。							
15	神経変性①				神経変性疾患について学習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	神経変性②	神経変性疾患について学習する。
17	筋障害①	筋障害について学習する。
18	筋障害②	筋障害について学習する。
19	内科学①	呼吸器疾患、糖尿病について学習する。
20	内科学②	心疾患、運動療法、緩和ケアについて学習する。
21	脊髄損傷①	脊髄損傷について学習する。
22	脊髄損傷②	脊髄損傷のADLについて学習する。
23	関節リウマチ①	関節リウマチの変形・生活指導について学習する。
24	整形外科疾患①	熱傷、末梢神経損傷、手根管症候群等について学習する。
25	整形外科疾患②	筋・腱損傷、骨折について学習する。
26	整形外科疾患③	側彎症、脊椎疾患、CRPSについて学習する。
27	精神障害①	統合失調症、気分障害について学習する。
28	精神障害②	摂食障害、アルコール障害等について学習する。
29	小児科学①	正常発達、反射について学習する。
30	小児科学②	脳性麻痺、知的障害のプログラムについて学習する。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		特になし
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）
教 科 書		担当教員より都度指示します。
参 考 書		担当教員より都度指示します。
授業の留意点・備考		特になし

科目名		地域リハビリテーション論Ⅰ					担当教員		有働 正二郎※1（専任教員） 青山 和美※2（非常勤講師） 看護学科専任教員※3		
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	地域作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		※1 地域での経験を活かし、地域でのOTの役割や制度について講義を行うことができる。 ※2 通所リハでの経験を活かし、MTDLPについて講義演習を行うことができる。 ※3 病院での看護師としての経験を活かし、喀痰吸引に関する講義演習ができる。									
授 業 概 要		・専門基礎分野及び基礎作業療法学等を基盤とし、地域リハビリテーションの概要や制度・サービス等について学習する。 ・地域リハビリテーション実践の各サービス及びアプローチの方法等について学習する。									
到 達 目 標		・地域リハビリテーションの概念や歴史、地域における作業療法士の役割について説明できる。 ・生活障害・ICFの概念と評価及び生活障害に対するアプローチについて説明できる。 ・社会保障制度の枠組みや介護保険制度について説明できる。 ・ニーズ把握の重要性について説明でき、地域におけるチームアプローチについて説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 地域とは			地域という言葉について理解を深め、医療圏の分類ごとの内容について理解する。							
2	地域リハビリテーションの定義 ノーマライゼーションの理念・ICF			地域リハの定義を理解し、現在のリハ医療の流れ、それに至るまでのノーマライゼーションの理念やICFの考え方を再度確認する							
3	地域における作業療法士の役割			日本OT協会の活動歴史を振り返り、地域のOTの役割や生活期リハのプロセスや地域リハアプローチの特徴等について学習する							
4	生活障害の評価			生活の捉え方や活動の分類、その人らしさとは何かを学習した上で、生活の戦略的捉え方や生活障害の評価について学習する。							
5	地域作業療法の内容			地域で求められる作業の内容はどんなことかについて学習する。地域における作業療法の実践モデルについて考え、医学モデルとの違いを確認する							
6	社会保障制度			社会保障制度の概要について学習し、それらの歴史的変遷と、それに伴うOTの位置づけの変化について学習する							
7	介護保険制度の概要			介護保険制度の概要（制度創設の背景、介護保険制度の特徴、介護保険の財源、保険者と被保険者）について学習する							
8	ケアマネジメントの概要			ケアマネジメントの概要（循環構造、アセスメントの方法、ケアプラン作成等ケアマネジメントプロセスについて）について学習する							
9	介護保険制度と健康日本21			介護保険制度や、介護予防施策、健康日本21におけるOTの役割を学習し、OT評価（IADL、AMPS）について学習する							
10	ニーズの分類とその意味			ニーズの分類とその意味やアブラハムズローの欲求の階層について学習し、ニーズ発掘のためにどのようなアプローチが必要かを学習する							
11	リスクマネジメント			リスクマネジメントの概要を学習した後、地域におけるリスクマネジメントの特徴について学習する							
12	地域における連携・協働			地域における連携・協働の必要性について学習し、連携する職種の業務と役割について学習する							
13	終末期リハビリテーション①			終末期リハビリテーションについて文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する							
14	終末期リハビリテーション②			終末期リハビリテーションについて文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について発表し、その後解説を行う							
15	介護老人保健施設の実践①			介護老人保健施設の実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	介護老人保健施設の実践②	介護老人保健施設の実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について発表し、その後解説を行う
17	通所リハビリテーションの実践①	通所リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する
18	通所リハビリテーションの実践②	通所リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について発表し、その後解説を行う
19	訪問リハビリテーションの実践①	訪問リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する
20	訪問リハビリテーションの実践②	訪問リハビリテーションの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について発表し、その後解説を行う
21	福祉用具・介護予防の実践①	福祉用具や介護予防において実際にセラピストはどう関わるのかについて調べ学習する
22	福祉用具・介護予防の実践②	福祉用具や介護予防において実際にセラピストはどう関わるのかについて発表し、その後解説を行う
23	地域包括支援センターの実践①	地域包括支援センターの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習する
24	地域包括支援センターの実践②	地域包括支援センターの実践について文献検索し、グループで作業療法の目的やその特徴について調べ学習し、その後解説を行う
25	生活行為向上マネジメント① (MTDLP)	生活行為向上マネジメントの概要（開発背景・社会背景、地域包括ケアシステム）について学習する (青山)
26	生活行為向上マネジメント② (MTDLP)	生活行為向上マネジメントの内容（考え方解説、重要な視点、支援の流れ、シーターの紹介・説明、シーターの記入方法）について学習する (青山)
27	生活行為向上マネジメント③ (MTDLP演習)	生活行為向上マネジメントの演習を行う（事例紹介、演習：聞き取り、アセスメントシート、プランシート） (青山)
28	喀痰吸引①	喀痰吸引の基礎（解剖学的理解と吸引の基礎知識）について学習する (看護教員)
29	喀痰吸引②	基礎知識を学習した上で、吸引モデルを用いて喀痰吸引の演習をする (看護教員)
30	地域リハビリテーションまとめ	講義を受講し学んだこと、感じたこと、気づいたこと、今後に向けてレポート課題)
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義前半は復習中心で良いが、後半の調べ学習では、各種文献や教科書をよく読み、疑問点を持って授業に臨むこと。不明な点は授業の解説時に質問をすること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 96 % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☒ レポート（ 4 % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ % ）
教 科 書		標準作業療法学 専門分野 「地域作業療法学」第2版 小川恵子編集 医学書院 (その他) 資料を教員が用意する。
参 考 書		特になし
授業の留意点・備考		今まで学んできた医学モデルと全く異なる生活モデルの考え方を学び、作業療法士として広い視野を持てるよう講義や演習に臨んでください。不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。

科目名		地域リハビリテーション論Ⅱ						担当教員		山田 勝久		
学科	作業療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域作業療法学							選択・必修		必修
担当教員の実務経験		精神障害者の地域移行を進め、地域での生活の定着を図るために、援助者に求められる価値観・知識・技能を習得する。										
授 業 概 要		精神障害評価法・精神障害治療学総論で習得した精神科作業療法の基礎技術を基盤に、摂食障害その他の精神疾患に対する作業療法について実践的に学ぶ。										
到 達 目 標		1. 精神障害者に関する法制度の概要を説明できる 2. 地域で生活する精神障害者に対する生活支援の概要を説明することができる 3. 対人援助の基本原則について説明することができる 4. 精神障害者が活用できる社会資源を理解し、マネジメントすることができる										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	これからの精神保健医療福祉制度				精神保健医療改革ビジョンと脱施設化の政策について理解する							
2	これからの精神保健医療福祉制度				精神科作業療法と精神障害者を取り巻く法制度を理解する							
3	精神障害者に対する地域生活支援活動				精神障害者に対する地域生活支援活動と作業療法の役割を理解する							
4	精神障害者に対する地域生活支援活動				精神障害者に対する就労支援活動と作業療法の役割を理解する							
5	対人援助技術 バイステックの7原則				対人援助におけるバイステックの7原則を理解する							
6	対人援助技術 バイステックの7原則				バイステックの7原則に基づいた援助のポイントを理解する（仮想ケーススーパービジョン）							
7	対人援助の実践				紙面ケースを通じて精神障害者の生活支援に対する作業療法の役割を理解する							
8	精神障害者の家族と家族支援				精神障害者の家族が置かれた現状と援助のポイントを理解する							
9	社会資源の理解とケースマネジメント				精神障害者が利用できる社会資源を理解する							
10	社会資源の理解とケースマネジメント				仮想ケースを通じて、精神障害者のケースマネジメントを理解する							
11	社会資源の理解とケースマネジメント				仮想ケースを通じて、精神障害者のケースマネジメントを理解する							
12	特別講義				精神障害者に対するソーシャルワーク							
13	特別講義				精神障害を生きるということ（統合失調症を生きる当事者の語り）							
14	特別講義				精神障害を生きるということ（薬物依存を経験した当事者の語り）							
15	授業のまとめ				これまでの授業を振り返り総括する							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題 （ 10 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ ）										
教 科 書		生活を支援する 精神障害作業療法 第2版										
参 考 書		※精神科作業療法の授業で使用了テキストを使用します										
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。										

科目名	生活環境整備学						担当教員	有働 正二郎			
学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域作業療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床での経験を活かし、施設内や在宅での生活環境への支援について、講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		人が生活する空間をその人に合わせた環境にするために、どのような視点で、どのような手段で、どのように援助していくのかについて学ぶ									
到 達 目 標		在宅及び施設での基本的な住宅環境整備について説明することができる 建築基準法上の基本的基準について説明することができる 疾患別の住宅改修のポイントを説明することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	高齢者を取り巻く社会状況と住環境			高齢者の生活状況を知るとともに、住環境整備の重要性や必要性について学ぶ 介護保険制度の概要と高齢者向けの住宅施策の変遷について学ぶ							
2	障害者を取り巻く社会状況と住環境			障害者の生活と住環境について学ぶ 障害者福祉施策の概要と障害者向けの住宅施策の変遷について学ぶ							
3	在宅介護での自立支援のあり方①			在宅生活を支える介護の基本姿勢を学び、在宅介護の現状と問題点について学ぶ							
4	在宅介護での自立支援のあり方②			福祉住環境整備における移動能力の把握の重要性について学ぶ							
5	建築に関する基礎知識			日本の住宅の特徴、建築の基礎知識について学ぶ							
6	実践知識 建築図面のルールと読み方			図面の役割、図面のルールについて学ぶ							
7	生活環境整備の共通基本技術①			段差の解消について学ぶ							
8	生活環境整備の共通基本技術②			床材の選択、手すりの取り付け、建具への配慮について学ぶ							
9	生活環境整備の共通基本技術③			スペースの配慮、家具・収納への配慮、色彩・照明計画、インテリアへの配慮について学ぶ							
10	生活環境整備の共通基本技術④			冷暖房への配慮、非常時の対応、経費、維持管理への配慮について学ぶ							
11	疾患別生活環境整備①			脊髄損傷の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
12	疾患別生活環境整備②			脳卒中の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
13	疾患別生活環境整備③			リウマチの特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
14	疾患別生活環境整備④			認知症の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							
15	疾患別生活環境整備⑤			パーキンソン病の特徴を知り、生活上の問題点と住環境整備について学ぶ							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	介護保険制度における住宅改修	給付内容や手順、そのポイントについて学ぶ
17	現場におけるリハビリテーション	生活機能低下改善に対する支援、考え方について学ぶ
18	居室の環境整備	できるだけ早く実施する環境整備とある程度の期間、生活をみて実施する環境整備について学ぶ
19	起居動作	寝返り、ベッド上の移動、起き上がりについて学ぶ
20	移乗の介助	立っての移乗、座位での移乗、全介助による移乗について学ぶ
21	移動の介助	車椅子による移動と車椅子の適合の事例、歩行の環境整備について学ぶ
22	食事の介助	食事の環境づくりと食事に関わるさまざまな環境について学ぶ
23	移動面からみた排泄と入浴の介助	トイレの環境整備、入浴介助に伴う動作について学ぶ
24	機能訓練のあり方、在宅復帰への支援	廃用症候群 機能障害に対する機能訓練の事例、在宅復帰への支援について学ぶ
25	福祉用具と住宅改修、在宅での生活環境への支援①	福祉用具と住宅改修導入のポイント 玄関への支援について学ぶ
26	在宅での生活環境への支援②	排泄環境への支援について学ぶ
27	在宅における入浴支援、在宅復帰に向けたアプローチ	着替えの準備、浴室までの移動、脱衣所、浴室出入り口、浴槽出入り、湯船にかかる、体を洗う・洗髪、衣服の着脱 事例について学ぶ
28	出かけよう！、楽しみながら観察力を向上させよう	なで出かけることが重要なのか、どんな方法が有効か、出かけない・出かけられない理由は、 車への移乗 観察力を高める工夫について学ぶ
29	シーティング演習①	車椅子の採寸をやってみよう。 標準型車椅子のフットプレート・キャスターブレーキの調整方法について学ぶ
30	シーティング演習② 福祉用具を用いた移乗の実際	モジュラー型車椅子について学ぶ スライディングボード演習、床走行リフター演習
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		しっかりと復習をすること
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 95 % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☒ レポート（ 5 % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☐ その他（ ）
教 科 書		「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」、東京商工会議所編 OT・PTのための住環境整備論第2版、三輪書店 「リハビリテーションからみた介護技術」、中央法規
参 考 書		特になし
授業の留意点・備考		レポート課題やグループワークがあるため、積極的に参画すること 福祉住環境コーディネーター2級を受験すること

科目名	作業療法見学実習						担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員			
学科	作業療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		医療機関もしくは介護老人保健施設で行う1週間の見学実習である。									
到 達 目 標		社会人としての基本的な態度を身につける。対象者とのコミュニケーションを図る。作業療法のイメージを持つことができる。作業療法に関する興味・関心を深め、自らの課題を自覚し、今後の学習につなげることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	臨床作業療法の見学			令和2年8月31日（月）～9月5日（土）までの9週間							
2				各々の臨床実習施設で実施する							
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・ ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	評価実習Ⅰ（精神障害系）					担当教員	臨床実習指導者		
-----	--------------	--	--	--	--	------	---------	--	--

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	3	時数	135	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授業概要		精神障害領域の作業療法を実践する精神科病院で実施する、評価を中心とした3週間の臨床実習である。									
到達目標		1. 評価を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する 2. 実習施設における作業療法および作業療法士の役割機能を学ぶ 3. 障害を持つ人に対する臨床家としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	評価計画の立案			精神科領域における作業療法評価の計画を立てる							
2	評価の実施			面接・観察・情報収集などの評価を実施する							
3	全体像のまとめと焦点化			評価結果から全体像をまとめ、問題点を焦点化する							
4	予後予測			評価結果に基づいて将来像を予測する							
5	目標設定			長期目標・短期目標を設定する							
6	作業療法計画の立案			治療・指導・援助計画を立案する							
7	記録報告			SOAPの書式にしたがい、評価結果を記録する							
8	作業療法過程の理解			実習を通して精神科領域における作業療法の過程を理解する							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☒ 課題（ % ） ☒ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者の評価、報告会発表態度等を総合的に評価する）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	評価実習Ⅱ（身体障害系）					担当教員	臨床実習指導者		
-----	--------------	--	--	--	--	------	---------	--	--

学科	作業療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	3	時数	135	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授業概要		身体障害領域の作業療法を実践する一般病院および介護老人保健施設で行う、評価を中心とした3週間の実習である。									
到達目標		1. 評価を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する 2. 実習施設における作業療法および作業療法士の役割機能を学ぶ 3. 障害を持つ人に対する臨床家としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ									
授業計画											
回	テーマ		授業内容								
1	評価計画の立案		精神科領域における作業療法評価の計画を立てる								
2	評価の実施		面接・観察・情報収集・検査・測定などの評価を実施する								
3	全体像のまとめと焦点化		評価結果から全体像をまとめ、問題点を焦点化する								
4	予後予測		評価結果に基づいて将来像を予測する								
5	目標設定		長期目標・短期目標を設定する								
6	作業療法計画の立案		治療・指導・援助計画を立案する								
7	記録報告		評価結果を記録・報告する								
8	作業療法過程の理解		実習を通して身体障害領域における作業療法の過程を理解する								
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習）の具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☒ 課題（ % ） ☒ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者の評価、報告会発表態度等を総合的に評価する）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	長期実習 I					担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員				
学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	8	時数	360	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		身体障害もしくは精神障害各領域における9週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究的態度と能力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1						令和2年4月13日（月）～6月13日（土）までの9週間					
2						各々の臨床実習施設で実施する					
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・ ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									

科目名	長期実習Ⅱ				担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員		
-----	-------	--	--	--	------	---------------------	--	--

学科	作業療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	8	時数	360	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授 業 概 要		身体障害もしくは精神障害各領域における8週間の臨床実習である。									
到 達 目 標		人の心身の発達、構造について医学的、専門的知識から理解し、深い人間愛を持って対象者の抱える課題を把握し、治療し、社会への適応を援助していくために実践的研究的態度と能力を身につける。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1					令和2年6月22日（月）～8月15日（土）までの8週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成 績 評 価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・ ）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									

科目名	地域実習				担当教員	臨床実習指導者 作業療法学科教員					
学科	作業療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	3	時数	135	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、作業療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授業概要		地域領域における3週間の臨床実習である。									
到達目標		長期実習Ⅰ期及びⅡ期から次のステップとして障害者（児）の地域生活を支えるための作業療法について学び、実践的研究的態度と能力を身につける。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1					令和2年8月24日（月）～9月12日（土）までの3週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ % ） ☐ 実技試験（ % ） ☐ 小テスト（ % ） ☐ レポート（ % ） ☐ 課題（ % ） ☐ 発表（ % ） ☒ その他（臨床実習指導者による評価・症例レポート等提出物・症例報告会内容・）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考		担当ケース1事例を症例レポートとしてまとめ、実習終了後に報告会レジュメとあわせて速やかに提出すること									